

ほっかいどう

私学振興

だより

No 32

2026年(令和8年)3月

北海道私立中学高等学校協会

目 次

| | |
|----------------------|----|
| ● 挨拶 | 1 |
| ● 私学振興に関する懇話会 全道大会 | 2 |
| ● 私学振興全国大会 | 7 |
| ● 道・道議会・国への要望活動 | 9 |
| ● 定例総会・理事会・各部会の活動 | 12 |
| ● 支部の声 | 21 |
| ● 理事長・理事・校長研修会 | 28 |
| ● テーマ別研修会 | 29 |
| ● 私立高等学校周年行事記念式典 | 31 |
| ● 北海道社会貢献賞(私学教育功績者) | 32 |
| ● 北海道私立中学高等学校保護者会連合会 | 34 |
| ● 北海道私立高等学校事務長会 | 36 |
| ● 北海道私学団体連合会 | 36 |
| ● 道教委情報ボックス | 37 |
| ● 道学事課からのお知らせ | 38 |
| ● 私学情報の発信 | 40 |
| ● 私学関係団体からのお知らせ | 42 |
| ● 令和7年度・令和8年度の動き | 44 |



これからの私学教育

北海道私立中学高等学校協会
会長 西岡 憲廣

平素から私学教育の振興・発展に多大なご理解、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

今年度を振り返ると私学にとって大きな出来事の一つとして、昨年2月に自由民主党、日本維新の会、公明党による3党による「いわゆる高校無償化」などについて合意され、高等学校等就学支援金の所得制限の撤廃と支給上限額が引き上げられることになりました。このことにより子供たちが家庭の経済状況にかかわらず自らの希望に応じて自由に学校を選択することができるようになります。当協会としては、この機会を捉えてそれぞれの学校が独自の教育理念に基づき、より一層私学ならではの自主性を発揮して、子供たちから選ばれる学校を目指すとともに、今後とも日本の学校教育に貢献していく考えています。

さて、我が国の少子化は年々深刻さを増しており、また、引き続き物価や人件費の高騰、さらにはアメリカ・イスラエルのイラン攻撃により原油・エネルギー価格が世界的に上昇している状況にあります。加えて私立学校では空調・換気設備など学校施設への整備やICT環境の整備等に要する経費が増大するなど、私学経営に多大な影響を及ぼしています。

公教育の一翼を担う私学としては、急激な時代の変化や社会の求めに応じるため、常に新しい時代の要請に答えられる人材を育成していかなければならないと考えています。当協会ではその時代の変化等を踏まえて迅速に対応し、日本の未来を担う子供たちに対して特色ある私学教育活動を展開し、今後とも時代に即した人材の育成に努めて参ります。

そのためには、私学助成の改善などにより私学経営の安定を図ることが大切であることから、当協会では私学経営の健全化、公私間格差の是正、保護者負担の軽減、教員の資質向上などを図るため、「私学予算の充実と公私間の納付金負担格差の是正」「中卒者の減少に伴う公立高校の定員調整」「魅力ある学校づくりに向けた研修の充実」を重点項目として位置づけ、様々な事業や要望活動に取り組んで参りました。

また、本年1月13日には、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員、加盟校の代表者や保護者などの方々が一堂に会して「私学振興に関する懇話会全道大会」を開催し、多くの私学関係者の皆様と私学教育の充実・発展と経営の安定などに取り組む決意をしたところです。

当協会といたしましては、引き続き、私学の使命と私学教育の充実向上に向けて結束するとともに、公教育の将来に向かって着実に前進して参りますので、今後とも皆様のご理解、ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

私学振興に関する懇話会 全道大会



北海道私学団体連合会（西岡憲廣議長）主催の「令和7年度私学振興に関する懇話会全道大会」が、令和8年1月14日（水）札幌ガーデンパレスにおいて開催された。

この懇話会は、北海道私学団体連合会加盟10団体の役員をはじめ教職員や保護者などが一堂に会し、教育水準の充実向上と経営の安定に取り組む決意を新たにするとともに、私学教育に理解を示し、本道の私学振興に積極的に取り組んでいただいている国会議員、知事、道議会議員・議長の皆様をご来賓としてお招きし、私学への公的助成や支援施策の充実に一層のご理解とご協力を求めるために開催している。今年度は全道から344名の参加となった。

当日は、鈴木直道北海道知事、伊藤条一北海道議会議長、吉田祐樹北海道議会教育振興議員連盟筆頭副会長から、私学の支援に対する力強い応援のご挨拶をいただくとともに、北海道議会教育振興議員連盟役員の皆様に応援に駆けつけていただいた。

主催者及び来賓のご挨拶は次のとおり。

【主催者代表 西岡憲廣議長】

皆様にはお気持ちも新たに新年をお迎えのこと、心からお喜び申し上げます。また、本日は、年始めの何かとお忙しい中、全道各地から多くの皆様にご参加いただき、全道大会が盛大に開催できますことを大変嬉しく思っております。

本日の懇話会にはご来賓として、まず、鈴木

直道北海道知事、伊藤条一北海道議会議長をはじめ、議員連盟の道議会議員の皆様にご出席いただいております。本当にありがとうございます。

ご来賓の皆様には、日頃から私学に対する公的助成や、教育費負担の公私間格差の縮小・是正など、多くの私学支援対策に取り組んでいただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。



本道の私学は、それぞれの建学の精神のもと、時代の進展と社会の要請に応じて多様で特色ある教育を展開し、我が国の発展に大きく寄与してきたものと考えております。一方で、私学を取り巻く環境は、少子化や人口減少に加え、物価、光熱費、人件費の高騰が続く中、デジタル化の推進や各種施設等の整備のほか、質の高い教員確保のための処遇改善などの課題に対応するため、これまで以上に厳しい状況下に置かれております。公教育の一翼を担う私学人といたしましては、このような困難な課題に立ち向かいながら、北海道そして日本の将来を担う子どもたちをしっかりと支え、時代の変化に対応し、創造力を発揮できる人材に育てていくという使命を担っていかねばなりません。

ご来賓の皆様におかれましては、保護者への

私学振興に関する懇話会 全道大会

助成制度の拡充や経常費助成制度等の充実、耐震化や冷房などの施設設備への支援の拡充等を通じて、我々私学関係者が安定した経営基盤のもと、個性豊かで特色のある教育を行えるよう、さらなるお力添えをお願いする次第であります。

本日までご参集いただきました関係者の皆様には、私学教育の充実向上に向けて一層の結束をお願いいたしますとともに、新時代に立ち向かう、強い気概を持って未来に進んでいただきたいと思っております。

終わりに、本年が皆様にとりまして実り多い一年となりますことを、心よりご祈念申し上げ開会にあたっての挨拶といたします。本日はどうもありがとうございました。

【鈴木直道 北海道知事】

皆様、2026年もよろしく申し上げます。常日頃、大変お世話になっております。本日は、私学振興に関する懇話会全道大会、多くの皆様のご出席のもとで開催されますこと、



心からお慶びを申し上げます。先ほどご挨拶もございました西岡議長をはじめとして、本日までご出席しておられます皆様には、日頃から子どもたちに寄り添い、特色ある教育を実践され、北海道の教育の充実に多大なるご尽力をいただいておりますことを、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

さて、去年は赤レンガ庁舎がリニューアルオープンいたしました。多くの方々に訪れていただいておりますけれども、貸し会議室としても使うこともできますので、ぜひ皆さんもご活用いただければ大変ありがたいと思っております。また、去年は、ラ

ピダスの半導体の試作が我が国において初めて成功いたしましたし、また、松前・檜山沖での洋上風力発電、これが促進区域に指定をされました。また、食の分野では、日本の食料・農業・農村基本計画、これに北海道が主要穀物などの主産地ということで、初めてこの食料安全保障が重要だと言われる今日において北海道の役割が明確になった、こういった年でも昨年ではございました。そういった意味では、今までなかったような明るい動きもありました。

その一方で、先ほどお話もございました長引く物価高などによって、道民の皆様の暮らし、そして事業者の方々の経営、大変厳しい状況がございました。道としても累次の経済対策を講じてきたところでございますけれども、年末には第1弾ということで、国のほうが電気代、ガス代、または暫定税率の廃止ということで、ガソリン代が足元で少し安くなっていますけれども、LPガスが対象外ですので、道としてのそのガスの支援、また福祉灯油、また特別高圧電力の助成、支援ということでやっておりますけれども、さらに第2弾ということで今、対策検討をしているところでございます。できるだけ早く皆様にお届けするために、準備を進めていきたいと思っております。

また、カムチャッカ半島付近での地震への対応やヒグマ対策、この点も子どもたちの安全を守る、様々なそういった課題のリスクに対応した、そういう一年でもございました。引き続き、子どもたちを含めた道民の皆様の命と暮らしを守っていく、こういったことを最優先に皆さんとともに取り組んでいきたいと思っております。

こうした中で、去年の3月には、子どもたちの成長を社会全体で後押しする、誰一人取り残さない学びと育ちの環境づくりを進める、このために、こども基本条例を制定し、総合教育大綱の改定も同時に行わせていただいたところであります。関係の皆様にも多大なるご協力をいただきました。このことにも、この場をお借りして、ご協力いただいた皆さんに感謝を申し上げます。

私学振興に関する懇話会 全道大会

今、国においては、家庭の教育費負担の軽減に向けて、就学支援などの議論が進められています。道としても保護者の皆様の負担軽減に取り組んでいきたいと考えています。また、子どもたちが多様な教育機会を得られるように努めてまいり考えてございます。新しい年、2026年においても、子どもたちが意欲を持って学び、夢へ向かって挑戦できる、そういう環境を皆様とともに整えていくために、私学の教育の充実に努めてまいりたいと考えておりますので、これからも皆様のご理解とご協力を本年も心からよろしくお願い申し上げます。

結びになりますけれども、本年もこの私学のますますの発展、そして皆様にとって希望に満ちた年となることを心から祈念申し上げて、簡単ではございますけれども、ご挨拶に代えたいと思います。本年も皆様よろしくお願い申し上げます。

【伊藤条一 北海道議会議長】

新年あけましておめでとうございます。北海道議会議長の伊藤条一でございます。令和7年度私学振興に関する懇話会全道大会の開催にあたり、北海道議会議長を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。



本日、全道各地から多くの皆様がお出席され、本大会が盛大に開催されること、心よりお祝いを申し上げます。西岡議長をはじめ、お集まりの皆様におかれましては、日頃からそれぞれの立場で、私学教育を通じ、本道教育の発展向上に多大なるご尽力をいただいておりますことに、感謝申し上げますとともに、心から敬意を表する次第でございます。

全道では、北海道では全国を上回るスピードで少子高齢化、人口減少が進行し、これまで経験したことのない厳しい時代を迎えております。児童生徒の急激な減少や長引くエネルギー・物

価高騰などにより、地域と学校を取り巻く環境はますます複雑化、多様化しております。このような中で、本道が将来にわたり活力ある地域として発展していくためには、子ども達が自らの可能性を発揮し、未来を切り拓いていく力を身につけることがこれからの学校教育により一層求められており、私学ならではの魅力ある教育を提供していくためには皆様のお力が不可欠でございます。

私ども北海道議会といたしましても、私学が引き続き大きな役割を担っていくためには、経営の安定性、健全性を高めることが何より重要であると考えており、これまで国に対する意見書の提出や全国都道府県議会議長会としても、大変重要な要望項目の一つとして国への要望を続けてきたところでございますが、引き続き、本日ご出席しております道議会教育振興議員連盟とも緊密に連携を図りながら、本道の私学教育の充実強化に向けて力を尽くしてまいりますので、皆様方におかれましても一層のお力添えを賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

結びとなりますが、本日の大会が実り多いものとなりますことをご期待申し上げますとともに、本年がお集まりの皆様にとりまして、より良い1年となりますよう心からご祈念を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

【吉田祐樹 教育振興議連筆頭副会長】

皆さん、改めまして、あけましておめでとうございます。ご紹介いただきました北海道議会の教育振興議員連盟の吉田でございます。本日は、会長の田中がどうしても所用により



来られないということですので、会長の田中からメッセージを預かってきておりますので、代読させていただきます。

私学振興に関する懇話会 全道大会

令和7年度私学振興に関する懇話会全道大会が、全道各地から多くの私学関係者参集のもと盛会に開催されますことを、心からお喜びを申し上げます。

西岡議長はじめ、本日お集まりの皆様には建学の精神や独自の教育理念に基づき、新しい時代に対応した特色ある教育を展開し、本道の公教育の発展に多大なるご尽力をいただいておりますことを感謝申し上げますとともに、心から敬意を表する次第であります。

さて、昨今、人口減少やグローバル化が進行する中、社会状況が様々に変化し、また学校教育に求められるニーズも多様化するなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しております。加えて、長引く物価高騰などにより、私立学校を取り巻く環境は厳しいものとなっております。このような状況を踏まえ、教育振興議員連盟としては引き続き、財務省や文部科学省、こども家庭庁、道内選出国會議員に対しまして、政府予算に関する要望活動をはじめ、私学助成に関する意見書を国に提出、要望していく考えてあります。

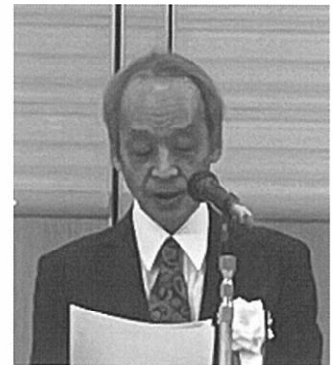
さて、皆様ご承知のとおり、昨年12月に令和8年度政府予算案が示され、いわゆる高校無償化のほか、管理運営費などの経常費助成にかかる単価アップや学校施設整備費の増額などが図られたところでありますが、物価や人件費などの高騰が続く中、まだまだ私学関係予算の増額は必要と考えており、我々といたしましては今後とも予算の確保に全力をあげて取り組んでまいり所存であります。

また、各団体から要請いただいております北海道予算についても、道財政が厳しい状況ではありますけれども、皆様からの要望を道にしっかりと伝えて、予算の確保に努めてまいりたいと考えておりますので、皆様におかれましては、今後とも相互に連携し、個性的で魅力あふれる学校づくりを進め、将来の北海道を担う人材の育成にご尽力賜りますように心からお願いをする次第であります。

結びになりますが、本日の大会が実り多いものとなりますことをご期待申し上げますとともに、皆様方のこれからのますますのご健勝をご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。令和8年1月14日、北海道議会教育振興議員連盟会長田中芳憲、代読。本年もどうぞよろしく申し上げます。

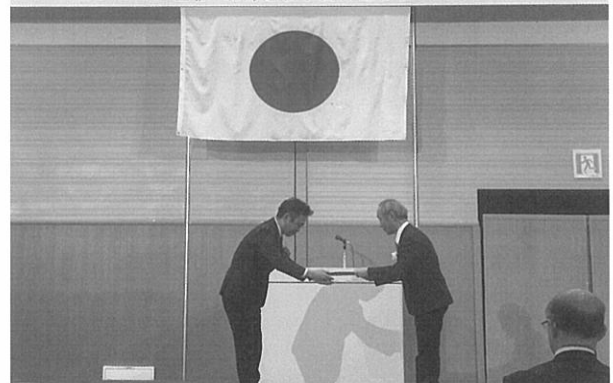
〔大会決議〕

大会の最後には、私学経営の健全化のための補助金等の大幅な拡充、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ることを柱とする決議案を、山崎省一北海道私立中学高等学校協会副会長が読み上げ、全会一致で採択され、決議はその場で自由民主党北海道支部連合会幹事長でもある吉田祐樹北海道議会教育振興議員連盟筆頭副会長に手渡された。



7年度 私学振興に関する懇話会 全道

主催 北海道私学団体連合会



私学振興に関する懇話会 全道大会

決 議

本道の私立の幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、専修学校・各種学校、短期大学、大学は、それぞれ建学の精神と独自の教育理念のもと、常に時代の進展と社会の要請に応じて特色ある教育を展開し、将来を担う人材を育成するとともに北海道の発展に多大な貢献をしてまいりました。

近年、人口減少や少子化の進行、グローバル化の進展、デジタル化の推進など教育を取り巻く環境が急速に変化しており、加えて昨今の物価や人件費の高騰などにより、私学を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。

我が国が持続可能な社会を維持していくためには、未来を切り拓く子供たちに魅力ある質の高い教育の提供が何よりも大切であり、そのためには、安定した経営基盤のもと私学ならではの特色を生かした教育の充実が大変重要と考えます。

本日、私学関係者並びに保護者の総意において、本道の教育の充実・発展に一層努力することをお誓い申し上げますとともに、公教育における公私間のさまざまな格差是正を目指し、その速やかな実現を期して次の事項を決議します。

記

- 一、私学経営の健全化、保護者負担の軽減及び教育諸条件や施設設備の整備のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、公私間における保護者の教育費負担の格差是正のため、私立学校の就学支援金制度等の拡充を図ること
- 一、学校施設等の耐震化の早期完了、冷房設備の整備促進、既存の施設整備の更新、長寿命化のため、所要の補助金等の大幅な拡充を図ること
- 一、私立学校教職員退職金資金給付事業等の補助金の充実を図ること
- 一、物価・光熱費・人件費の高騰に対する支援の充実を図ること

令和8年1月14日

私学振興に関する懇話会全道大会

私学振興全国大会



日本私立中学高等学校連合会（中高連）及び日本私立中学校高等学校保護者会連合会（日私学保連）の主催による「令和7年度私学振興全国大会」が、全国の都道府県から1,706名の私立学校関係者や保護者の参加のもと、11月5日に文京シビックホール「大ホール」で開催された。

大会には日頃から私学の振興・発展にご理解いただいている自由民主党国会議員31名（代理を含む。）の皆様にご出席いただき、私立学校に対する補助の大幅な拡充、ICT環境の整備、施設の耐震化・高機能化に係る補助の大幅な拡充、子供たちの自由な学校選択の保障と私立学校保護者の教育費負担軽減のため「いわゆる高校無償化」の実現を要請した。

はじめに、主催者を代表して吉田晋中高連会長と鹿濱徳雄日私学保連会長が挨拶に立った。吉田会長からは、「私立学校を運営している費用の3割強は経常費助成費補助という国・都道府県の補助金。その補助制度は50年前に自民党の若手議員が中心となり、議員立法で成立させた私立学校振興助成法によってできたもの

決 議

私立中学高等学校は、建学の精神の下、特色ある質の高い教育を行い、我が国の公教育の発展に貢献してきました。

変化の激しい現在、私立中学高等学校は、我が国の将来を担う子供たちの資質・能力を育成する教育環境を整備するため、質の高い教員の確保やICT環境の整備、今後発生が懸念される大規模地震に備えるための学校施設の耐震化、そして近年の記録的猛暑による熱中症対策などの施設の高機能化に努め、より安全で安心な教育環境の実現のため、様々な対策を行っております。しかしながら、国公立学校はその全額が公費で賄われるのに対し、私立学校は公費負担が一部に限られ、昨今の物価高騰等により、厳しい学校経営を強いられています。

私立中学高等学校は、国・都道府県からの私学助成と保護者からの学納金によって支えられています。私学助成による支援が充実することは、教育の質の維持・向上、そして保護者負担の軽減にも繋がり、非常に重要となっています。

本年2月に、自由民主党・公明党・日本維新の会の三党で合意された、就学支援の拡充である「いわゆる高校無償化」については、全国の子供たちが住む場所によらず自由な学校選択が保障されると期待されますが、実施に際してはその財源のために、教育関係予算が削減されることはあってはなりません。また、公私ともに教育の質の向上に向けて切磋琢磨していくことが求められており、私立専門高校を含めた支援の拡充が行われるべきです。

つきましては、本日ここに、私立中学高等学校関係者並びに保護者の総意において、私立学校の自主性・独自性を活かした特色ある質の高い教育の維持・向上と保護者負担の軽減を期して、下記の事項について決議いたします。

記

- 一、私立中学高等学校の質の高い教育の維持・向上のため、経常費助成費補助の大幅な拡充
- 一、私立中学高等学校の教育環境の整備・充実のため、ICT環境の整備、施設の耐震化・高機能化に係る補助の大幅な拡充
- 一、子供たちの自由な学校選択の保障と、私立中学高等学校の保護者の教育費負担軽減のため、「いわゆる高校無償化」の実現

令和7年11月5日

令和7年度私学振興全国大会

私学振興全国大会

であり、その恩は決して忘れていない。また、令和8年度以降のいわゆる「高校無償化」の実施が3党合意されたが、恒久的な財源は決まっていない。これからは自民党の先生方のご尽力にかかっている。保護者や子供たちが行きたい学校を選べる社会を作っていこうという議員の先生方のお気持ちをありがたく受け止め、先生方を応援していきたいなどについての挨拶があった。

続いて鹿濱日私学保連会長からは、物価等の高騰が続く中、質の高い教育環境を維持するため私立学校の財政負担は年々大きくなっている。令和8年度私学関係政府予算案編成に当たっては、経常費助成費補助金の拡充といわゆる「高校無償化」の実現について支援を要請した。

また、中高連の近藤彰郎副会長からは、大会に出席の保護者に対して、公私関係なく良い教育かどうか、自分の

子供に合っているかしっかり判定してほしい。選択権は皆さんにある旨を発言。また、公立、私立が共に発展していく重要性を訴えるとともに、日本の教育を守るために努力していく考えを述べられた。

さらに、東京都私立中学高等学校父母の会中央連合会の倉片なお子さんが、いわゆる高校無償化により同じ学校に通っても居住地によって受けられる授業料支援額格差が是正されることなどを求めた「保護者の願い」を読み上げ、山谷えり子参議院議員に手渡された。

最後に、日私学保連の関口健一副会長が、「私立中学高等学校の質の高い教育の維持・向上のため、経常費助成費等補助の大幅な拡充」「私立中学高等学校の教育環境の整備・充実のため、ICT環境の整備、施設の耐震化・高機能化に係る補助の大幅な拡充」「子供たちの自由な学校選択の保障と、私立中学高等学校の保護者の教育費負担軽減のため、いわゆる「高校無償化」の実現」を要望の柱とする決議案を読み上げ、満場一致で採択され、上野通子参議院議員に手渡された。

来賓議員から力強いご挨拶

最初に、文部科学省を代表して清水真人文部科学大臣政務官からご挨拶があり、私立学校の役割は我が国の学校教育の発展に極めて重要で、文部科学省としては教育条件の維持向上、児童生徒の就学上の経済的負担の軽減、私立学校の経営の健全性を高めるために令和8年度の予算編成に向け私学助成の充実、税制上の優遇措置などに全力で取り組んでいることや、いわゆる「高校無償化」については、来年4月からの実施に向け必要な取り組みを進めていくなどと発言があった。

保護者の願い

近年、AIなど情報技術の進歩やグローバル化、少子高齢化が加速しており、子供たちが直面する未来は、今は大きく異なる社会であることが予測されます。こうした社会においても、子供たちが将来安心して生きていくことができることを、私たち保護者は、第一に願っています。

私立中学高等学校では、それぞれ特色ある先駆的な教育が実践され、そこで学ぶ子供たちは幅広い学びを通して知識の習得だけでなく、柔軟な思考力と人間力を養いつつ、先生や友人から大きな影響を受けながら日々成長しています。

私たち保護者は、子供たちの学びの場がより良い教育環境となることを望んでいますが、教員のなり手不足や近年の猛暑や自然災害に対応した施設設備の整備など課題は様々です。

また、私立高等学校では、同じ学校においても、居住地により、授業料の支援を受けられる子と受けられない子がおり、大きな不公平感を生んでいます。保護者の負担軽減を目的とした「いわゆる高校無償化」の実現により、こうした格差が是正され、私立高等学校に通う子供たちへの就学支援が充実されることは、私たち保護者にとっても、期待が大きいところです。

ただし、就学支援の拡充によって私学教育の質の低下につながるものがあってはならず、そのためにも国や都道府県において、私学助成のより一層の拡充が必要不可欠です。

私たち保護者は、私学の「建学の精神」に基づく特色ある教育方針に賛同し、子供たちを学ばせています。家庭の経済状況や居住地によらず、子供たちが自由に学校を選択し、自らが望んだ教育を受けて欲しいというのが、私たち保護者の切なる願いです。

国会議員の先生方におかれましては、私立中学高等学校の教育環境の一層の充実と、保護者の経済的負担の軽減を目指し、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年11月5日

令和7年度私学振興全国大会 保護者代表
東京都私立中学高等学校父母の会中央連合会 倉片 なお子

私学振興全国大会

続いて、自民党を代表して萩生田光一幹事長代行からは、令和8年度の私学助成関係概算要求の予算がしっかり措置されること、現在策定が進んでいる経済対策に関し、私立学校の熱中症対策のための空調の整備、耐震対策にしっかり取り組むこと、また、いわゆる「高校無償化」については、4月以降の実施に向け全力で環境整備をしていく旨の発言があった。

また、有村治子自民党総務会長からは、「高校無償化」を巡る3党間の折衝の最前線で取り組んでいた松本洋平議員が文部科学大臣に就任したことや、令和8年度概算要求では近年にない大幅な私学助成増を要求していること、策定を進めている経済対策に関しては私立学校の耐震対策、空調設備整備に取り組んでいく方針を述べられた。

続いて、元国務大臣の山谷えり子参議院議員からは、私学は学校と保護者が一体となって教育の力を高めようとしていることが大きな特徴であり、その熱意が子供たちに伝わり生きる力になっていると述べられ、私学振興に全力で取り組むとの発言があった。

そのほか、上野通子自民党副幹事長、元文部科学大臣の末松信介参議院議員からご挨拶があったほか、出席の叶わなかった松本洋平文部科学大臣のメッセージが紹介された。

大会終了後、道中高協会と北私学保連の参加者は国会議員会館に移動し、道選出国会議員に対し要請活動を行った。

道・道議会・国への要望活動

「令和7年度私学振興に関する懇話会」については、1月に全道大会を開催しているほか、北海道議会教育振興議員連盟の皆様をはじめ、北海道総務部長、北海道教育委員会教育長とも個別に開催し、私学の現状や課題について意見交換を行うとともに、予算要望等を行っている。

1. 北海道議会教育振興議員連盟との懇話会

北海道議会教育振興議員連盟の皆様との懇話会は、第1回目を概算要求に向けて7月3日に、第2回目を令和8年度の私学振興関係予算要望に向けて12月11日に開催。

私学の現状や課題等について説明するとともに、私学関係予算について要望し意見交換を行った。

2. 令和8年度私立高等学校等関係政府予算に関する要請

急速に少子化が進行する一方で、教育のデジタル化、教員の資質の向上・負担軽減等の課題への対応のほか、長引く物価の高騰など私学を取り巻く環境は厳しい状況を踏まえ、令和8年度私立高等学校等関係政府予算について、道議会教育振興議員連盟のお力添えをいただき関係省庁及び国会議員への要請活動を行った。



道・道議会・国への要望活動

【中央要請】令和7年7月29日(火)

・要請内容

私学予算の拡充、私立高等学校等施設の耐震化に対する支援の充実強化、ICT環境の整備促進及び公私間の納付金負担格差の縮小是正と保護者負担軽減施策の拡充

【要望先】

| | | |
|-----------|----|----|
| 文部科学副大臣 | 武部 | 新 |
| 財務大臣政務官 | 東 | 国幹 |
| 文部科学委員長 | 中村 | 裕之 |
| 北海道選出国會議員 | | |

【出席者】北海道議会教育振興議員連盟

| | | |
|---------------|-----|----|
| 会長 | 田中 | 芳憲 |
| 幹事長 | 清水 | 拓也 |
| 副幹事長 | 佐々木 | 大介 |
| 事務局長 | 檜垣 | 尚子 |
| 委員 | 高田 | 真次 |
| 北海道私立中学高等学校協会 | | |
| 会長 | 西岡 | 憲廣 |
| 事務局長 | 澁谷 | 恵補 |
| 事務局次長 | 代田 | 透 |



3. 北海道総務部長との懇話会

坂本隆哉総務部長との懇話会は、9月1日(月)に開催。

西岡会長の挨拶後、山崎副会長及び宮路副会長から、私学の現状や課題、私学予算の推移等を説明するとともに、今後の私学振興について意見交換を行った。

4. 自民党道連団体政策懇談会における要望

自民党道連が主催する、令和8年度の道の予算要望等の各団体との懇談会について、当協会も北海道私学団体連合会の一員として参加した。

10月9日(木)に開催され、当協会は西岡会長(北海道私学団体連合会議長)と山崎副会長が出席し、「令和8年度私学振興に関する要望書」に基づき、管理運営対策費補助金の充実、私立高等学校授業料軽減補助制度の拡充、入学一時金軽減補助制度の創設、公立高校の定員調整、公立高校の二次募集による私立高校合格者の辞退防止対策などについて要望した。



5. 北海道教育長との懇話会

北海道教育長(代理:川端学校教育監)との懇話会は、11月15日(金)に開催。

西岡会長の挨拶後、各副会長から少子化が急速に進行している状況等を踏まえ、北海道の公教育のあり方、公立と私立の役割分担等を早急に公私間で協議・意見交換を行う必要性について意見を述べるとともに、当協会の要望を踏まえた公立高校の間口調整、公立高校の二次募集の出願資格について「入学手続を完了した私立高校合格者」を認めないよう要望した。

道・道議会・国への要望活動

6. 北海道議会での「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」の議決

国の予算時期に合わせて「私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書」を議決していただいております、第2回定例道議会の会期最終日の7月5日に議決していただいた。

意見書は次のとおり。

令和7年7月4日可決

意見案第6号

私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書

私学は、建学の精神と独自の教育理念の下、時代の変化や社会の要請に応じた特色ある教育を実践し、我が国の公教育の発展に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、我が国は、急速に少子化が進行し、これまで経験したことのない厳しい時代を迎えており、私学においても、児童生徒の急激な減少や長引くエネルギー、食料品等の物価高騰への対応などにより、経営環境はより一層厳しさを増している。

近年ますます国際化・高度情報化が進展する社会において、我が国が持続的に成長・発展を遂げていくためには、新しい時代が求める能力や知力を有するグローバル人材の育成が急務であり、私学は、こうした人材育成のために、これまで以上に自主性や多様性を発揮しながら、社会的役割を果たしていく必要がある。

国は、私立高等学校等の授業料の実質無償化拡充に向けた検討を進めるなど、公私間の格差は正に努めているところであるが、私学は依然として厳しい経営を余儀なくされており、その安定性・健全性を高めることが何よりも重要となっている。

よって、国においては、こうした私学が置かれている厳しい経営環境や公教育における社会的役割に加え、昨今の物価高騰の影響にしっかりと目を向け、次に掲げる事項について支援の一層の充実強化を図るよう、強く要望する。

記

- 1 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえた「経常的経費の2分の1補助」の実現
- 2 いわゆる「高校無償化」に係る所得制限の撤廃、私立高校の加算額の引上げなどによる公私間の納付金負担格差の縮小是正とさらなる保護者の負担軽減施策の拡充
- 3 学校施設に係る耐震化に対する公立学校と同水準の支援、公私を区別しない空調・換気設備の整備促進
- 4 公私を区別しないICT環境の整備促進
- 5 都道府県が実施する私学助成制度に対する財源措置の一層の充実強化
- 6 エネルギー価格等の物価高騰の影響に対するより一層の支援

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

令和 年 月 日

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
財務大臣
文部科学大臣

各通

北海道議会議長 伊藤 条 一

定例総会・理事会・各部会の活動

定例総会

令和7年度の定例総会は、5月13日(火)札幌ガーデンパレスにおいて開催。

西岡会長の挨拶に続いて、来賓として北海道の濱坂真一副知事及び北海道議会の稲村久男副議長から挨拶をいただいた。

議長選出を諮り、北海学園札幌高等学校長の竹越広志氏が議長に選出され、審議が進められた。

1. 審議事項

議案第1号「令和6年度事業報告及び収支決算について(監査報告)」

○担当部会長及び事務局から説明し、監事からの監査報告が行われ、原案どおり議決。

議案第2号「令和7年度事業計画(案)及び予算(案)について」

○担当部会長及び事務局から説明。

会員から一部文言の修正意見があり、意見のとおり修正した。

また、ほかの会員から当協会に納付する会費について、全日制と通信制の生徒一人あたりの会費の算出方法についての意見があり、今後は当該意見を参考に検討することとなった。

そのほか、意見等はなく一部修正して議決された。

2. 報告事項

報告第1号「理事長・校長等の異動等について」

報告第2号「令和7年度暫定予算について」

○事務局から説明。

会員から「理事長・校長等の異動等について」一部修正意見があり、意見のとおり修正した。

そのほかは承認された。すべての議事を終了し閉会した。

総会終了後の懇親会には、来賓として、北海道議会教育振興議員連盟の中司哲雄顧問、田中芳憲会長、吉田祐樹筆頭副会長、大越農子副会長、清水拓也幹事長、檜垣尚子事務局長、高田真次委員、水間健太委員、衆議院議員秘書等の皆様、北海道総務部の岡本拓司行政局長、佐藤昌彦学事課長の皆様にご出席いただき、会員との懇親を深めていただいた。

定例総会・理事会・各部会の活動

理 事 会

理事会は、定例総会に向けて主に事業報告・収支決算及び事業計画・収支予算を協議するため3月と4月に、また、翌年度の予算要望方針等を協議する会議を8月に開催した。

令和6年度 第3回 令和7年3月25日(火)

1 協議事項

- (1) 令和7年度定例総会議案について
 - ① 令和6年度事業報告及び収支決算について
 - ② 令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - ③ 理事長・校長等の異動等について
 - ④ 令和7年度暫定予算(案)について
- (2) 令和7年度私立中高振興対策費「特別会計」(案)について
- (3) 北海道私立中学高等学校協会「旅費規程」の一部改正について(案)

令和7年度 第1回 令和7年4月18日(金)

1 協議事項

- (1) 令和6年度監査報告
- (2) 令和7年度定例総会の配付資料、提出議案、進め方について
- (3) 令和7年度定例総会懇親会の進め方について

令和7年度 第2回 令和7年8月26日(火)

1 説明

- (1) 令和8年度国の文教施策及び予算に関する提案・要望について
- (2) 私立高等学校管理運営対策費補助金の推移について

2 協議事項

- (1) 令和8年度私学振興に関する要望書(案)について
- (2) 北海道私立中学高等学校協会の今後の運営について

3 報告事項

- (1) 公立高等学校配置計画案(令和8年度～10年度)について
- (2) 令和7年度北海道地区初任者研修会について
- (3) 令和7年度テーマ別研修会について
- (4) 令和7年度理事長・理事・校長研修会(トップセミナー)について
- (5) 2026年版私学ナビの発行について
- (6) 修学支援リーフレットの発行について
- (7) 令和7年度北海道私立学校展の開催について

定例総会・理事会・各部会の活動

令和7年度 第3回 令和8年3月25日(水)

Ⅰ 協議事項

(1) 令和8年度定例総会議案について

令和7年度事業報告及び収支決算について、令和8年度事業計画(案)及び収支予算(案)について、役員改選について、理事長・校長等の異動等について、令和8年度暫定予算(案)について、令和8年度私立中高振興対策費「特別会計」(案)について

経営管理部会

部会長 山崎 省一

公教育を支えるために

少子化の進行により北海道の教育は危機的な状況にあります。私学は独自の教育理念と多様な教育力によって公教育を支えていかなければなりません。そのためには安定した経営基盤の確立が不可欠です。当部会では、今年度も私学への公的助成の増額、公私の区別のない形での財政支援、公私間の負担格差の是正、物価高騰への対策などを、さまざまな機会をとらえて関係各方面に強く訴えてまいりました。道財政が厳しい中において、毎年、私学への公的助成が上積みされていることはその成果と言えます。

対応しなければならない様々な課題が山積する中、当協会の果たすべき役割は今後ますます大きなものになると思われます。私学間の連携をさらに強化しつつ、協会運営基盤の改善・安定を図り、より実効性のある着実な活動を創り出していかなければなりません。

以下に令和7年度の活動報告をさせていただきます。皆様のご理解とご協力に感謝するとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

1. 令和8年度私学振興予算要望の概要

物価高騰を含む経費の動向等を踏まえ、父母負担の軽減、教育条件の維持向上、経営安定等を図るため、管理運営費補助の充実(生徒一人当たり単価アップ、経常経費の2分の1補助の実現)、小規模校経営改善促進の充実、耐震化及び冷房施設整備等に対する支援の充実強化、ICT環境の整備促進、「いわゆる高校無償化」の早期決定等、入学一時金軽減補助制度の創設などを要望することとする。

<要望事項>

(1) 私立高等学校、中学校及び狭域通信制高等学校に対する管理運営費補助金の増額について (補助単価要望を3%アップ)

| | |
|-----------------------|---------|
| 私立高等学校管理運営対策費補助金 | 108.9億円 |
| 私立中学校管理運営対策費補助金 | 9.6億円 |
| 私立狭域通信制高等学校管理運営対策費補助金 | 9.0千万円 |

(広域通信制は国による直接補助)

定例総会・理事会・各部会の活動

(2) 私立高等学校等に対する私学振興方策について

- a. 私立学校振興助成法の趣旨を踏まえ、経常経費の2分の1補助実現
- b. 生徒一人当たり補助単価の引き上げと全国順位を下回らないこと
- c. 国による財源措置の一層の充実と、道の上乗せ額の縮減を行わないこと
- d. 中卒者数の減少の著しい地域の小規模校に対する特別措置
- e. 耐震化及び冷房施設整備等への支援の充実強化

現在、私立高等学校等施設の耐震化率では、北海道は78.6%、全国順位では46位となっています。公立高等学校等の耐震化率はほぼ100%となっており、遅れをとらないよう努めていかなければなりません。

また、近年、北海道においては記録的な猛暑が続いているが、道内の私立学校における冷房設備の整備は進んでいない状況にあることから、熱中症対策などの整備が求められています。

- f. ICT環境整備促進について公立との格差是正
- g. 公私間の生徒納付金格差の縮小・是正、父母負担軽減策の充実
 - ・道の私立高校授業料軽減補助の一層の充実
 - ・公私間の納付金格差が非常に大きい私立の入学一時金の軽減補助制度の創設
 - ・私立中学校等における通う児童生徒への授業料減免支援制度の充実
 - ・奨学のための給付金制度の更なる充実
 - ・私立高等学校等の生徒の海外留学・研修旅行・国内修学旅行等経費への支援の充実
- h. 中卒者減少に対応した公立高校の適切な間口減
- i. 道立高校の第二次募集による私立高校入学手続き完了者の辞退防止対策

[以下参考]

(3) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校に対する経営安定資金貸付制度の継続について

経営安定資金貸付金 9億円(令和7年度 9億円)

短期経営安定資金貸付金 2億5,000万円(令和7年度 2億5,000万円)

(4) 公益社団法人北海道私学振興基金協会が行っている私立高等学校等の教育施設整備事業に対する貸付制度の継続について

貸付金 1億円(限度額)(令和7年度 1億円)

(5) 公益社団法人北海道私学退職金社団が行っている教職員退職金資金給付事業に対する補助金について

補助定率 1,000分の36(令和7年度 1,000分の29)

補助金額 2億8,455万円(令和7年度予算額 2億3,887万円)

現在の負担金率は令和5年度から標準給与総額の1,000分の154の額を徴収しております。平成26年4月から公益社団法人に移行しましたが、退職金給付事業における要支給額に対する積立金の割合は、全国平均より下回っており、公益法人として今後更なる積立金の充実が求められます。道内の私立学校の教職員等の安定的な人材確保のため、地方交付税で財源措置が講じられている私立中・高等学校教職員等の標準給与総額の1,000分の36相当額の道補助金の復活を願うものであります。

定例総会・理事会・各部会の活動

(6) 公益財団法人北海道高等学校奨学会が行っている奨学金等の貸付について

奨学金貸付月額

10,000円、15,000円、20,000円、25,000円(公立上限)、30,000円、
35,000円(私立上限)

(上記金額から希望額を選択)

償還期間 12年以内(据置1年)

高等学校奨学会は、向学心に富み、かつ経済的理由により就学困難な高校生等に対して奨学金等の貸付を行うなど、有用な人材を育成する事業を実施しております。令和8年度においても、奨学金の貸付や償還など、事業の運営にあたり支障が生じることのなきよう、格別なご高配をお願いする。

2. 令和7年度の主な動きとしては、監事による監査(4月11日)、経営管理部会(8月21日、3月5日)、私学振興全道大会(1月14日)を開催したほか、道議会教育振興議員連盟との懇話会(7月3日、12月11日)、道総務部長との懇話会(9月1日)、自民党道連団体政策懇談会(10月9日)、道教育長との懇話会(11月17日)に参加しました。また、令和8年度政府予算要望については、7月29日に道議会教育振興議員連盟のお力添えで、中村裕之衆議院議員を通して道議会教育振興議員連盟の田中芳憲会長、清水拓也幹事長、佐々木大介副幹事長、檜垣尚子事務局長、高田真次委員にご同行願ひ、財務省、文科省、道選出衆・参議院議員に対し陳情を行いました。

11月5日には全国私学振興大会に参加終了後、衆参議員会館に赴き、道選出国會議員に私学予算について陳情いたしました。

3. 当部会として、私立中高校等に対する助成、就学支援の充実、公私間の生徒納付金等格差是正のための施策充実、公立高校の間口調整等について、今後とも行政機関、関係機関、関係団体と連携をとりながら検討を重ねて参ります。

4. 教育振興部会、研修部会、他団体のご協力により私学の情報誌として「私学振興だより」32号を発刊することができました。担当部会といたしまして感謝申し上げます。今後とも、予算要望等私学振興に反映させて参りたいと思っておりますので、ご指導、ご協力のほどお願いいたします。

教育振興部会

部会長 宮路 真人

公私協議は喫緊の課題

出生数の急激な減少に歯止めがかからず、劇的な人口流入でもないかぎり好転する見込みはありません。言うまでもなく教育は未来への投資であり、持続可能な希望ある北海道を構築するためには、全道に遍く良質な教育環境を整え、人材を育てていく必要があります。しかしながら、現実と乖離した公立高校の配置計画と十年一日のごとき公私の関係性が固守されているのが現実であり、こ

定例総会・理事会・各部会の活動

うした固陋な姿勢は北海道の教育環境の急激な悪化を招来させかねません。この何年か私たちは、公私協の場をはじめ常に、公私連携による全道を俯瞰した抜本的な改革、その論議の場の創出を呼びかけてきました。公私がそれぞれの存在意義を自覚し、ともに力を発揮してこそ、北海道の未来を切り拓くことができるのだと思います。道教育庁も強い危機感を抱きつつも、様々な「忬度」もあって事はなかなか進んでいきません。「忬度」すべき相手は未来の人々だ、そう強く思います。「公私それぞれで考えて…」などという「縦割り」の話をしている場合ではなく、公私連携しての改革はもはや焦眉の急だと思えます。教育振興部会として、強く強く働きかけを行ってまいります。

以下に本年度の具体的な活動状況をご報告申し上げます。

第1回教育振興部会（4月17日）

（協議）

(1) 公立高校配置計画（令和8年度～10年度）に係る意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対して要望を行うことを確認。

各学区の状況について説明聴取。

(2) 公立高校等入試の2次募集の状況及び公立高校の2次募集による入学者辞退調べの結果について確認するとともに、高校配置計画に係る意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

（報告）

(1) 令和7年度入試出張試験の実施結果について報告

(2) 令和7年度私立高等学校一般入試に係る追試験の実施結果について報告

(3) 道内高専の在籍状況（第1学年）について報告

(4) 令和6年度地域別公立私立高等学校協議会開催結果について報告

第2回公私協議会（4月17日）

・公立高校配置計画（令和8年度～10年度）の策定に向けた考え方について、道教委から説明。

・山崎副会長の挨拶で、各学区の具体的な要望を理解し配置計画に適切に反映するよう要請するとともに、道立高校の2次募集の見直しを要望。

・各支部長から、それぞれの学区の実情や課題などについて発言し、中卒者の大幅な減少が見込まれる令和10年度の間口調整を確実に実行することや2次募集の見直しを要望。

・宮路部会長からこれまでの調整状況を踏まえて配置計画を策定すること、都市部における間口調整や再編を進めること、隣接学区における間口調整も確実に行うこと、高専への定員見直しの働きかけ、広域通信制高校への対応、道立高校の2次募集の見直しをすることなどを要請。

・山崎副会長から奥寺高校改革推進担当局長に意見要望書を手交。

第2回教育振興部会（7月7日）

（協議）

(1) 6月に公表された令和7年度公立高校配置計画案（令和8年度～10年度）に係る修正意見要望について協議するとともに、部会終了後に開催される「公私協」において、道教委に対し修正意見要望を行うことを確認。

各学区の状況について説明聴取。

定例総会・理事会・各部会の活動

- (2) 高校配置計画に係る修正意見要望と併せ、2次募集出願資格の見直しについて道教委に要望することを確認。

(報告)

- (1) 令和8年度入試に係る出張試験実施計画の届出について報告
(2) 市立札幌開成中等教育学校の入学者選考日程について報告

第3回公私協議会(7月7日)

- ・令和7年度公立高校配置計画案(令和8年度～10年度)等について道教委から説明。
- ・山崎副会長から、各学区の計画案に対する意見や要望を踏まえて配置計画案の見直しを要請するとともに、道立高校の2次募集の見直しを要望。
- ・各支部長からそれぞれの学区の実情や課題などについて発言し、配置計画案の必要な見直しについて要望。
- ・宮路部会長から、令和10年度の間口調整は、私学側の要望との隔たりが大きいものとなっている。間口調整の結果を検証した上での適正配置を要望。道立高校の2次募集に関しては、令和7年度の入選では募集人員数が公立高校の定員の16.3%にあたる4,798人となっているが、充足率は極めて低い状況となっており、定員調整が適切に行われていないと考えられることから早急に検討願いたいこと、広域通信制高校については公私ともに影響を受けることから、共通の課題として情報交換等を進めていくことを要請。
- ・山崎副会長から修正意見要望書等を奥寺高校改革推進担当局長に手交。

第3回教育振興部会(12月15日)

(協議)

- (1) 令和8年度公立高校配置計画(令和9年度～11年度)に係る私学意見要望を確認。
各学区の状況について説明聴取。
地域別公私協開催日程について報告
- (2) 高校配置計画の意見要望と併せ、道教委に2次募集出願資格の見直しについて要望することを確認。

(報告)

- (1) 収容定員の変更に関する届出について報告

第1回公私協議会(12月15日)

- ・公立高校配置計画(令和8年度～10年度)の概要について道教委から説明。
- ・山崎副会長から、令和7年度の公立高校配置計画について、間口調整が不足している学区も多く残っており、多くの欠員が生じている公立高校の状況をみると私学側として満足できるものではないことを指摘するとともに、2次募集について早急な見直しを要望。また、今後も中卒者の大幅な減少が続くことから長期的な見通しによる公私連携について要請。
- ・各支部長から、令和8年度の配置計画の検討に向けて、各学区の現状や課題、間口調整要望などを発言。

定例総会・理事会・各部会の活動

- ・宮路部会長から、4月の段階で私学側の要望に対する道教委の具体的な考え方を示すこと、令和8年度の配置計画については、11年度の中卒者数の減少は全体的には小幅だが多くの公立高校で欠員が生じており、これまでの定員調整が適切に行われていないとの認識のもと長期的な見通しに基づき策定すること、都市部における間口調整や再編を進めること、高専への定員見直しの働きかけ、道立高校の2次募集の見直しを行うこと、広域通信制高校への対応などを要請。
- ・山崎副会長から意見要望書等を奥寺高校改革推進担当局長に手交。

第4回教育振興部会（2月24日）

（協議）

- （1）入試制度について検証し、令和9年度一般入試についても、A・B日程での実施を確認。
- （2）令和9年度一般入試日程（案）及び入試日程決定に係る作業スケジュールを協議。
- （3）令和7年度事業報告（案）及び令和8年度事業計画（案）について協議。

研修部会

部会長 駒井 健一郎

令和7年度の研修事業・研修部会の動き

今年度も当番校のみなさまには多大なご理解ご協力を賜り、各事業を成功裏に終えることができましたこと心より感謝申し上げます。私立高校授業料無償化の話題が注目を集め、これまで以上に私立学校への関心が高まる中、各校が建学の精神を大切に継承しつつ、いかにして時代の期待に応える教育を提供していくのかを私学に関わる多くの方がバランス感覚のよい発想でアウトプットしていくことが求められています。そのための情報交換と研鑽の場として、研修部会では柔軟性と探求性の高い研修を提供していくことができるよう企画しております。「例年通り」に終始することなく、参加されるみなさまに明日へのアイデアをお持ち帰りいただけるよう当番校のみなさまが工夫してください、どの研修も参加者アンケートからは高い満足度が示されました。この先、私学を取り巻く環境が大きく変化することが予想されますが、本事業を通して共に「逞しい私学」を築いてまいりましょう。

〈事業〉

（1）私立学校初任者研修 北海道地区研修会

- （ねらい）新規採用教員に対して私立学校教員としての心構えを体得させるとともに実践的指導力の育成を図る。
- （会期）令和7年8月7日（木）～8日（金）
- （会場）札幌ガーデンパレス
- （参加）34名
- （担当）札幌支部（立命館慶祥中学校・高等学校、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、札幌日本大学中学校・高等学校、星槎国際高等学校）

定例総会・理事会・各部会の活動

(研修内容) 講義 1 演題:「変革」の時代に試される私立学校の教育
～21世紀型教育から22世紀型教育へ～

講師:一般財団法人日本私学教育研究所 所長 平方 邦行 氏

講義 2 演題:これからの教師に求められる資質能力について

講師:北海道教育大学教職大学院 院長 藤川 聡 氏

分科会 学習指導分科会、生徒指導分科会、学級経営分科会

(2) 第60回北海道私学教育テーマ別研修会

(研究主題) 時代の要請に対応する これからの私学教育

(会 期) 令和7年9月11日(木)～12日(金)

(会 場) グランドホテルニュー王子

(参 加) 55名

(担 当) 胆振支部

(3) 令和7年度 理事長・理事・校長研修会

(テ ー マ) 日本の未来を担う私学教育のあるべき姿とは
～高校授業料無償化とこれからの経営戦略～

(会 期) 令和7年10月16日(木)～17日(金)

(会 場) 釧路市生涯学習センター「まなぼつと幣舞」

(参 加) 35名

(担 当) 道東支部

(4) 令和7年度全国私学教育研究集会神奈川大会(参加)

(会 期) 令和7年10月2日(木)～10月3日(金)

(会 場) 横浜市 パシフィコ横浜アネックスホールほか

(研究目標) 生徒とともに未来を開く私学教育～近代私学発祥の地から新たな発信～

(5) 第63回北海道高等学校教育研究大会(後援)

(会 期) 令和8年1月7日(水)～8日(木)

(会 場) 札幌市教育文化会館ほか

(全体講演) テーマ「非認知脳によるライフスキル思考を学ぶ
～セルフマネジメントとリーダーマネジメント～」

講 師 スポーツドクター 辻 秀一 氏

(教科別集会) 札幌市内・小樽市内の14会場で開催

〈研修部会の主な動き〉

① 第1回研修部会 令和7年 6月20日(金)

② 第2回研修部会 令和7年 9月25日(木)

③ 私立学校初任者研修地区運営委員全国会議 令和7年10月10日(金)

④ 第3回研修部会 令和7年12月10日(水)

⑤ 第4回研修部会 令和8年 2月20日(金)

支部の声

札幌支部

支部長 浅利 剛之

今年度は中央政治により私学無償化の法制化が持ち上がり、それ以来ずっと振り回された一年でした。今年4月から始まるにも関わらず現在も流動的な状況の中、支部各校間で情報共有をしながらその対応を検討しているところです。

今年度の札幌支部は例年同様、総会（4月22日開催）を皮切りに、3回の役員会及び2回の支部会を開催しました。札幌市中学校進路指導協議会から7月に示される入試事務、手続きに関する要望を聞き、役員会及び支部会で協議した後、11月にその要望に返答する流れが毎年恒例になっており、加えて2月初旬のホテルで実施される合同願書受付の運営も各校持ち回りで実施しています。さらに札幌支部は所属する全高等学校がいち早くWEB出願システムを導入し中学校から高評価を得ています。公立高校も近年導入しましたが、そのきっかけになったのも札幌支部の動きが始まりでした。現在はより手続きを簡素化し負担を少なくするために写真をデジタルで統一する議論が進められています。また、中学校の先生対象の説明会も他校と被らないよう支部会で調整しており、中学校側の要望に可能な限り応えております。その他、自民党札幌市支部連合会との政策要望懇談会での助成金の引き上げ要望や、この1月で3回目を迎える札幌市中学校校長会との情報交換会などを実施し、多方面で札幌支部の私学の振興に努力しております。札幌市中学校校長会との情報交換会は現在、私学側が札幌圏の教育全体の話や未来構想、それに伴う私立高校と札幌市中学校の連携などの話をしたい一方、中学校側は入試業務や受験生徒の情報共有の仕方など現場での課題解決が主な話したい内容になっており、なかなか議論がかみ合わない悩みに直面しています。私立無償化のような新しい流れもあり、今後中学校との関係性をどう新しく構築して私学をより発展させていくか大事な局面になっていると考えています。

日本は現在急激な少子化により、生徒確保そして教育内容の維持が大きな課題です。北海道はその中でも少子化のスピードが速く地方に行けば行くほどさらに速くなっています。札幌圏も一極集中だとは言われますが、確実にその波は押し寄せてきており公立高校との競争は益々激化しています。さらにコロナ以降通信課程に進む生徒が毎年増え続けており、全日制高校の生徒数はさらに減少の度合いが加速しております。また日本全体の労働人口も急激に減少しており、どの業種も人手不足が深刻になっております。学校も教員を確保することが札幌圏であっても難しくなっており、その上若い人が特に教員になりたがらなく教員の高年齢化も大きな問題になりつつあります。今後の学校経営、学校教育の根底に関わる大きな問題が忍び寄ってきていると感じます。

このような危機的な状況の中で、札幌支部の代表として公私協に毎回出席して北海道教育委員会に私学側の要望をしております。札幌支部は、「道教委が主張する結果適配（結果的に集まらなくてクラス数を自然と減らすこと）によりクラス数減少させているという考えには、主体的にどういう考えで学校づくりをしていくかという未来構想、グランドデザインが全くない。公立高校の役割を再確認した上で、それに向けた統廃合をすべきである。」という主張をしております。私立無償化の波もあり、いよいよ本格的に取り組まざるをえない状況が近づいており、根気強く主張をしていきたいと考えております。難しい時代ですが、札幌支部及び全道の私立学校が益々輝いていけるよう微力ながら注力していきます。

支部の声

函館支部

支部長 扇柳 尚英

函館市の人口は、令和7年12月現在233,086人、令和6年同時期と比較して3,500人ほど減少しています。ピークだった昭和54年の345,165人と比較すると112,079人、32.5%の減少となっています。地域全体が人口減少の進行を大きな問題ととらえ、様々な対策を講じ、少しずつ成果は表れ始めていますが、先行きはまだまだ不透明なままです。

私たち私学8校も地域の一員として社会有為の人材を育成すべく、互いに連携しながらそれぞれの建学の精神の下、特色ある教育を展開しています。

連携の一例として、中学校の先生方を対象とした「私立高校合同進学説明会」が挙げられます。例年6月～7月に開催し、私学8校から教育活動、進路状況、入試、奨学金、資格や検定取得等々、様々な情報を提供しています。全体説明の後は、個別ブースでの相談も行っています。渡島檜山のほとんどの中学校が参加してくださり、私学・中学校双方にとって貴重な機会となっています。また、中学生や保護者を対象とした「私立高校進学フェア」を毎年7月の海の日に開催しています。高校入試に向けた外部講師の講演、高等学校就学支援金制度の説明、私学8校からの学校紹介、個別ブースでの面談を通じて、公立と私立の違いや私立高校の魅力、高校入試に向けて何をすべきか等を伝えています。

また、道南の多くの中学校が進路学習の一環として、進路学習会、進路講話、宿泊研修の際の高校訪問、PTA研修での高校訪問等を企画していただきます。このような企画は中学生や保護者の参考にもなりますし、我々私学8校にとってもそれぞれの特色を知っていただく貴重な機会となります。各校の特色をある程度理解した上で入学してもらえるとという点で、ミスマッチの予防と、入学後のスムーズな指導につながっています。

他にも、中学校の校長会や進路研との連携ならびに情報共有、高等学校長と中学校長共同の会議の実施、私立高校と公立高校との連携等、とにかく地域全体で、より良い教育の実現に向けて動いています。

もちろん、私立高校間の連携は言うまでもありません。函館地区私立高等学校長会、函館地区私立教頭副校長会を開催し、私学8校共同で中学校側に情報提供をしたり、入試等に関して共通化できる点を整理したりしながら、少しでも中学校・生徒・保護者の力になれるよう活動しています。また、令和6年度に函館地区私立事務長会が準備をはじめ、令和7年度からは共同で研修会を行う等、私学教育のより一層の充実に努めています。互いにライバルであるという面もありますが、良いものは学び合い、高め合い、より良い教育活動を行って、公立との差別化を行い、「やっぱり私学だ」と評価されるように努めています。

一方で、大きな課題もあります。地域の人口減少が進んでいるにもかかわらず、公立高校配置計画が機能していません。令和7年度入試において、公立高校の募集定員46学級1,840人に対し、欠員418人、欠員率22.7%という考えられない数字が残りました。また、普通学科28学級、職業学科18学級というバランスも中学生の進路希望の実情に適っているとは思えず、大きな問題ととらえています。

函館市の令和6年度の出生数は901人、令和7年度にはおそらく900人を切ります。このような中で、長期的な視点を欠いたままの配置計画を進めていくことは地域教育の崩壊につながります。未来を担う子どもたちに充実した学びを提供し続けるために、これからも要望すべき点はしっかり要望しながら、私立公立の垣根無く、共に公教育を支えるものとして手を携えて教育活動を展開してまいります。

支部の声

小樽支部

支部長 小路 修司

北海道芸術高校は、仁木町と手を取り合いながら、ユニークで心温まる教育活動を展開しています。昨年に続き、全国から集まった生徒たちが仁木小学校を訪れ、朝のひとときを使って子どもたちに読み聞かせを行うボランティア活動に取り組んでいます。物語に耳を傾ける子どもたちのきらきらした瞳と、生徒たちの真剣なまなざしが、教室を優しい空気で包みます。さらに、仁木町が推進する再生可能エネルギー事業にも、私たちは積極的に参加しています。ロゴやシンボルキャラクターのデザインコンテストで自分たちのアイデアを具現化し、仁木町の中学生や町民のみなさんによる投票で作品が選ばれる仕組みも導入しています。また、仁木町の魅力を映像で発信するためのナレーション活動も手がけ、地域と共に成長しています

北星余市は、戦後80年を迎える今年、「平和」の単位を創設し、2年生での履修を始めました。母体でもある北星学園は1995年に「平和宣言」を、2015年に「戦後70年に当たって」を発表し、今年も新たに「平和への声明」を出しました。聖書の教えるでもある「単に争いが無い状態だけでなく、神との関係が正しい状態、そして人々の幸福と繁栄が保障される状態」が大切だと考えています。そのためにも、国内外で差別や戦争が起こる経過をしっかりと捉えられるような学びを提供したいと考えています。生徒たちにとっても初めて知ることも多く、修学旅行で訪れた沖縄の現状もしっかりと考える姿勢が見られました。SNSで安易に結論をもとめるのではなく、資料を元に正しく判断できる力を養ってほしいと考えています。

天狗山の麓にある小樽明峰高校は、生徒数約200名の全日制普通科私立高校です。明峰高校では「明峰で輝く」という言葉を大切にしてきました。中学校時代、不登校状態だった生徒や、学業が苦手だった生徒、人間関係で悩んだ生徒たちも本校には集まってきます。そんな中、じっくりと生徒達に寄り添う教職員集団。社会体験学習等を通して深く生徒達に関わる地域の方々。さらには卒業生、卒業生の父母など様々な「大人」の力が集まり教育活動を展開していきます。そして、生徒達にとって真の意味での「生きる力」を育てています。それはHR活動やクラブ活動、生徒会活動等で一人ひとりが生き生きと「輝く」ことにつながっています。その姿は、WebページやInstagramでご視聴することができます。ぜひご覧ください。

小樽双葉高校は、本年で118年の歴史を持つ浄土真宗本願寺派の宗門関係校です。部活動について、全国レベルで活躍しているのはスキー部です。毎年アルペンスキーで優秀な成績を収め、これまでオリンピックを多数輩出しています。女子バスケットボール部や女子バレーボール部は全道の常連ですし、野球部も数度の道大会出場経験があります。文科系では、吹奏楽部が札幌地区予選において2年連続で金賞を受賞、昨年度はC編成で初めて全道大会出場を果たしました。強化指定部以外では、弓道部、羽球部、書道部、写真部、美術部なども熱心に活動し着実に力をつけております。部活動の様子は、Instagramで発信しておりますので、是非ご視聴ください。

開校125年目を迎える北照高校は地域を支える人材と世界で戦うアスリートを多数輩出しています。令和7年度は野球部が全道秋季野球大会で優勝するなど全道・全国で活躍し、部活動を通して自己実現を図ることができる学校です。また、さまざまな探究学習プロジェクトにより、体験を学びに、学びを力に変え社会に貢献する「人」を育てます。令和8年度からは普通コースをユニバーサルコースと改称し、アドベンチャーツーリズム、アグリワインアカデミー、アートクリエイティブの三つのフィールドを設置し、地域の協力により、わくわくする学びを体験し、学び続ける生き方を提案します。

支部の声

旭川支部

支部長 菅野 秀樹

令和7年度の旭川支部は、二つの変化を迎えたスタートとなりました。一つは、旭川龍谷高等学校の内藤佳和校長先生がご勇退され、新たに安藤弥校長先生をお迎えしたという体制面での変化です。長年にわたり旭川の私学教育を支えてこられた内藤先生のご功績に敬意を表するとともに、新体制のもとで支部活動が新たな一歩を踏み出したスタートでありました。もう一つは、市内私立高校全校において、新入生数が入学定員を下回るという、衝撃的な状況に直面した変化です。地域人口の減少が、いよいよ私立学校経営の根幹に直結する段階に入ったことを強く示している変化と感じております。

こうした変化の中にあっても、旭川支部では各校が互いに連携を深めながら、私学としての使命と役割を再確認し、教育活動の充実に取り組んできました。ICTを活用した学習の深化、探究的な学びの推進、地域や企業と連携した実践的な教育活動など、各校がそれぞれの特色を生かした挑戦を続けています。これらの取り組みは、生徒一人ひとりの可能性を引き出すものであり、私立学校ならではの柔軟性と機動力が発揮されていると感じています。

次年度からは、高校授業料無償化が始まります。この制度は、家庭の経済状況に左右されず学校選択ができる環境を整えるという点で大きな意義を持つ一方、私立学校にとっては、その存在意義と役割がこれまで以上に明確に問われる時代の到来でもあります。「学費がかからないから私立を選ぶ」ではなく、「この学校で学びたいから私立を選ぶ」という選択がなされるためには、各校が自らの教育理念や教育内容を、地域や社会に対して丁寧に発信していくことが不可欠です。

旭川支部としても、各校が学び合い、支え合いながら、道北地域における私立学校の存在感を一層高めていけるよう、引き続き連携を深めてまいります。これからも「道北に私学あり」と誇れる教育の実現に向け、歩みを止めることなく取り組んでいく所存です。

【旭川支部主な活動】

1 旭川市内中学校長会及び上川管内中学校長会との合同懇談会

開催日：令和7年6月2日（月）

場 所：アートホテル旭川

出席者：市内各私立高等学校長（クラーク記念国際高校含む）、旭川市中学校長会役員、上川管内中学校長会役員

議 題：令和8年度入学者選抜検査日程について

就学支援金制度について

中学校側からの意見交換として中高連携の在り方について

2 支部会議の開催

(1) 第1回

開催日：令和7年4月14日（月）

場 所：アートホテル旭川

出席者：各学校長、副校長、教頭、事務長他

議 題：令和6年度事業報告収支決算報告、令和7年度事業計画、予算案

令和7年度入学者数確認

支部の声

令和8年度入試日程等について

公立高校配置計画に係る修正意見要望について

(2) 第2回

開催日：令和7年6月20日（金）

場 所：名寄高等学校

出席者：各学校長、

議 題：各校の募集行事日程確認

中高情報交換会議のまとめ就学支援金制度内容確認

令和10年度公立高校配置計画案等に係る修正要望

胆振支部

支部長 竹本 将人

胆振支部は胆振東学区の駒沢大学附属苫小牧高等学校、苫小牧中央高等学校、北海道栄高等学校、胆振西学区の海星学院高等学校、北海道大谷室蘭高等学校で構成されています。

公立高等学校配置計画においては、公立間口換算分が配置計画に十分に反映されておらず、これまでの積み残し分も加わり、私学経営にとって深刻な状況が続いています。このような状況に至った要因として、公立分、私立分という表記での間口換算が示されてきたことが挙げられます。平成20年度以前では公私比率に基づく私学分の調整も求められていましたが、現在は私学所在学区においては、公立において調整を行うとなっています。しかし、私学分という表記はそのまま残っており、その分の調整がなされずに年度が進行することによって積み残された間口がさらに増える要因となっていると思われます。

道教委からは「定委員調整目安について」という資料が示されてきているが、調整の開始基準年が平成29年となっており、それ以前のことが勘案されていないことや、現在の公立欠員状況も加えた現状把握がされているのかなど、疑問が残る資料となっていると言わざるを得ません。

就学支援金制度については正式な通達には至っておらず、入学試験を迎えるに当たり実施要領策定では各校ともその対応に苦慮してきました。早期の制度確定を望んでいます。

広域通信制への中学卒業時での進学希望者も増加の傾向にあり、私学を取り巻く状況は一層厳しいものとなっています。また東学区においては定員調整に手が及ばない有朋高等学校連携の高等専修学校、さらには年度によっては定員をオーバーしている国立の高等専門学校があり、学則定員の遵守や削減を国への要望として継続してお願いしていきたいと考えています。

今後も、各校の建学の精神と教育理念に基づいた特色ある教育活動を推進し、胆振支部の連携を密にし、さらなる教育の充実を図っていききたいと考えています。

今年度は令和7年9月11日（木）・12日（金）にグランドホテルニュー王子で私学教育テーマ別研修会を担当するという貴重な機会を頂戴しました。運営ならびに交流会を通して胆振支部各校担当教職員が交流できたことに感謝いたします。

支部の声

【令和7年度 胆振支部主な活動(連絡協議会・事業)】

●支部総会・第1回連絡協議会

日時 令和7年5月8日(木) 17:00~19:00

場所 札幌

- 議題 ① 令和6年度事業報告、令和7年度事業計画
② 令和6年度決算、令和7年度予算
③ テーマ別研修会について
④ その他(各校情報交換)

●第2回連絡協議会

日時 令和7年12月18日(木) 14:30~16:30

場所 北海道大谷室蘭高等学校

- 議題 ① 胆振支部の事業について
② 次年度のトップセミナーについて

〈私学教育テーマ別研修会に向けて〉

第1回運営会議

駒澤附属苫小牧高等学校 会議室(14:30~)

(全体主題テーマ・交流会・部会構成・その他)

会議終了後に会場(グラントホテルニュー王子)視察実施

第2回運営会議

グラントホテルニュー王子

各校担当教職員による打合せを行った

道東支部

支部長 嶋野 幸也

この「私学振興だより」がお手元に届く頃には、概ね来年度の学級編制も固まっているものと思いますが、果たして高校授業料無償化の影響は如何になっているでしょうか。

この間、公立から私立へ生徒が流れ、地方の公立高校は存続さえ危ぶまれるような話も耳にしましたが、この原稿を執筆している今現在において申し上げれば、私学にとってそんなバラ色の状況が生まれてくるようには感じられません。

教育費に係る保護者負担の公私間格差是正は、長年にわたる課題の一つでありましたが、一般の授業料無償化は、その一歩として大きな意義を示すものであります。

しかしながら、中学生の進路選択のキーポイントは、授業料だけにあるわけではありません。自分の将来を考えた上での選択もあるでしょうが、大半は仲の良い友達と同じ学校がいいとか、あるいは親や中学校の先生に勧められたから、なかには制服がかっこいい、可愛いなどといった凡そ授業料とは全く関係の無い動機によって決められているのが実態なのではないでしょうか。

支部の声

そう考えると授業料が無償になったとしても、私立に入学してくる生徒が大幅に増えることにはつながらないのは明らかです。

もとよりこれまで私立が公立よりも高い授業料をいただいて教育活動を行ってきたのは、それぞれの学校がその建学の精神に基づく特色ある教育内容と質の高さにあったはずで、そのことは決して忘れてはならない点だと思います。

商売で言うところの“安かろう、悪かろう”は長続きしません。

高校への進学率が98.6~7%となり、殆どの中卒者が高校へ進学するからといって、全国一律平均パーという視点で教育を捉えては将来に禍根を残すことになりはしないか、今回の授業料無償化の議論のなかで改めて考えさせられたことです。

今一度、自分たちの提供してきたサービスの内容と品質について検証し、これからの戦略を考え直してみるいい機会であったと捉えております。

さて、私事で恐縮ですが、10年の長きにわたって道東支部長を務めさせていただきました。この原稿執筆が支部長としての最後の仕事になります。

この間、他地区の歴代の支部長さんには大変お世話になりました。

右も左もわからずに飛び込んだ教育の世界で、右往左往するなか、本当に色々なことを勉強させていただきました。

教育振興部会では、公立高校配置計画を巡ってかなり過激な意見も出させていただきましたが、今はステークホルダーという立場を超えて、北海道の高校教育の充実発展のために、公私がそれぞれ協調しながら、どう役割を果たしていくべきかというスタンスで協議に臨んでいます。

また、日本私立中学高等学校連合会の評議員も務めさせていただきました。教育と政治の関係にも触れさせていただくとともに、文科省はじめ中央省庁の動きについても、いち早く情報を得ることができ大変参考になりました。

後任の道東支部長は帯広大谷高校の小野校長先生がお引き受け下さいました。

お若いですが、現場を非常に大切にされている方ですので、道内の私学に取りましても有為な先生であることは間違いありません。どうぞ末永くお付き合い下さいますようお願い申し上げます。

私は疲れましたので、しばらくお休みをいただきます(笑)。

【令和7年度 道東支部の活動内容】

- 6月 4日(水) 道東支部総会及び教育懇談会
- 7月 9日(水) 帯広市中学校長会事務局・十勝小中校長会事務局との連絡協議会
- 10月10日(金) 私学3校合同入試説明会
- 12月10日(水) 道東支部教育懇談会
- 12月~ 地域別公私協(北見・釧路・十勝)

理事長・理事・校長研修会

道東支部長（白樺学園高等学校長 嶋野幸也）

10月16日（木）・17日（金）に令和7年度理事長・理事・校長研修会を開催いたしました。今回は、武修館高校の馬場校長先生にお願いし、釧路市を会場に「日本の未来を担う私学教育のあるべき姿とは～高校授業料無償化とこれからの経営戦略」をテーマにご案内したところ、ご来賓の皆様を含め47名のご参加をいただき、大変実りある研修会となりました。

開会式では、北海道私立中学高等学校協会西岡会長の主催者代表挨拶に続き、道東支部長から歓迎の挨拶を行った後、ご来賓を代表して北海道知事代理 北海道釧路総合振興局長 寺田宏様からご挨拶を頂戴いたしました。また、都合によりご出席いただけませんでしたが、北海道議会議長 伊藤 条一様からいただいたメッセージを紹介させていただきました。開会式後、記念撮影をし、研修会に入りました。



令和7年10月16日～17日 北海道私立中学高等学校協会 理事長・理事・校長研修会 於 釧路市生涯学習センター

【講演Ⅰ】では、釧路市ビジネスサポートセンターK-Biz センター長 澄川 誠治 様から「社会で求められる人材像と能力」というテーマでご講演をいただきました。今日の終わりなき人手不足やITの発達によるビジネススピードの高速化、さらには経済成長率が鈍化する中において、企業には人材育成の余裕がなくなってきており、育てるより勝手に育ってくれることの価値が飛躍的に向上している。これからの時代は、①主体性、②責任感、③自分らしさといったいわゆる「自律型人材」が必要とされており、それぞれ建学の精神に基づいた特色ある教育を続けてきている私学教育にこそその可能性があるとのメッセージをいただきました。

【講話Ⅰ】では、一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長 平方 邦行 様から「私学教育は日本の未来を拓くことができるのか」と題してご講話をいただきました。教育委員会や文科省が決めたことをやっていく公立学校と違い、私立は、答えの出ない状況に直面したとき、すぐに答えを求めず、その困難な状態に耐えうる能力いわゆるネガティブケイパビリティを育成することが重要であることのほか、海外大学進学に向けた英語力の強化や探究学習における OST（オープンスペーステクノロジー）の活用、さらには22世紀型教育を作るためには、すでに学習指導要領を超えた教育を行っている私学がもっと頑張らなければならないことなど具体的なヒントを提示していただきました。

【講話Ⅱ】では、北海道総務部行政局学事課長 佐藤 昌彦 様より「北海道私学の現状と課題」についてご説明をいただきました。この中で高校授業料無償化に伴って、現在授業料以外の納付金も対象となっている北海道の就学支援制度については、引き続き継続していきたいと考えている旨のお話をいただきました。

理事長・理事・校長研修会

道東支部長(白樺学園高等学校長 嶋野幸也)

1日目の研修会終了後、会場を変え懇親会を開催いたしました。和気藹々の中、様々な情報交換ができ有意義なひとときでした。

2日目の【講演Ⅱ】では、中央大学法学部特任教授 高瀬 徹 様から「私学だからできる中高大の教育実践」と題してご講演をいただきました。中央大学附属中学校における暗記型の受験教育にとられない、文法上は間違っても会話が成り立てばいいとする「プロジェクトイングリッシュ」や生卵を2階から落としても割れない卵ケースを創作する「プロジェクトサイエンス」の事例紹介、論理的に自分の考えを組み立てる哲学を重んじるフランスのバカロレア教育と日本の暗記〇×思考教育との比較などを通して、公立ではなく私学ならできる教育があるとの示唆をいただきました。

最後に、北海道私立中学高等学校協会 山崎 省一 副会長から「令和8年度私学振興予算要望方針等」について報告をいただきました。

今回は、武修館高校の馬場校長先生はじめ先生方には大変お世話になりました。あらためて心より感謝申し上げますとともに、本年1月7日に急逝されました学校法人緑ヶ岡学園理事長 蝦名 大也 様のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

テーマ別研修会

事務局：北海道大谷室蘭高等学校長 竹本 将人

令和7年度北海道私学教育テーマ別研修会は、9月11日(木)・12日(金)の日程で、胆振支部が担当し、苫小牧市グランドホテルニュー王子を会場に開催いたしました。

研究課題を『時代の要請するこれからの私学教育』として、全体講演、交流会、三部会を構成し、全道各地より50名を超える教職員の参加のもと有意義な研修を行うことが出来ました。簡単ではございますが、概要についてご報告申し上げます。

【全体講演】担当校 北海道大谷室蘭高等学校

演題 エネルギー転換の時代に ～洋上風力が拓く人と産業の循環型未来～

講師 株式会社栗林商会 取締役・MOPA(室蘭洋上風力関連事業推進協議会) 理事
成田 一人 氏

全体講演では、室蘭を拠点とした洋上風力発電の現状と将来展望について解説されました。

特に、MOPA(室蘭洋上風力関連事業推進協議会)の活動、地域資源、産業連携、気候変動への対応策に焦点を当てています。また、室蘭の地理的・産業的特性を活かした洋上風力の可能性と、地域全体で推進する循環型社会の実現に向けたビジョンが示されました。

●MOPA 概要(動画視聴)

●洋上風力並びに循環型社会の理解

講師より下記の項目について、丁寧に紹介・説明があり、参加者は洋上風力並びに循環型社会について理解を深めました。

- (1) 自己紹介 株式会社栗林商会概要
- (2) 洋上風力について
- (3) MOPA の取組み
- (4) エネルギー現状
- (5) GX への期待と課題
- (6) 未来循環型社会に向けて

テーマ別研修会

事務局：北海道太谷室蘭高等学校長 竹本 将人

【第一部会】担当校 海星学院高等学校

研究主題 学習指導と生徒指導の一体化を目指した授業づくり

部会講演 「子ども理解支援ツール『ほっと』を活用した教育実践」

講師 北海道医療大学教授 心理科学部長 富家 直明 氏

実践報告 「『ほっと』を使ってみた」子ども理解支援ツールの活用を通して

報告者 海星学院高等学校 教諭 宇都宮 浩史 氏

子ども理解支援ツール「ほっと」とは、コミュニケーションスキルを測定する生徒理解支援ツールで、発達段階に応じて小学校低学年～高校用まで選ぶことも可能なツールです。

生徒指導提要の発達指示的生徒指導・課題予防的生徒指導・困難課題対応的生徒指導のスクリーニングとして「ほっと」が有用であり、「ほっと」を授業の観察・評価の観点として活用することで、生徒指導と一体となった授業づくりを進めることが出来ると紹介されていました。

【第二部会】担当校 駒澤大学附属苫小牧高等学校

研究主題 個別最適と協調の両立を見据えた学習指導のあり方

《前編》講演「ビジネス実践力につながる学校での学び方とは」

《後編》研究主題に関するワークショップ

講師 東京学芸大学客員准教授 関西国際大学客員准教授・リクルートEd-tech 総研所長 森崎 晃 氏

実践力(社会人として働くうえで、いま求められるスキルやスタンス)とはどのようなことか。

実践力につながる、学校での学びや学び方、教え方や支え方とはどのような方法か、などについて社会的実例を含めて紹介されていました。

- ビジネス実践力とは
- 学校での学び方
- ワークショップ

【第三部会】担当校 北海道栄高等学校

研究主題『効果的な人材育成と魅力ある組織づくり』

講演 「人材育成と組織づくりから考える、心に届く“ガンバレ”」

講師 株式会社レバンガ北海道 事業統括本部長 嘉沢 剛 氏

人材育成と組織づくりは、片方だけでは効果を十分に発揮できないので、両者を有機的に結びつけることで、個人と組織がともに成長し続ける基盤を整えることができる。実践を重ねながら改善を図り、挑戦し続ける組織づくりを進めていくことが重要であると説明されました。

●講演内容

- (1) 魅力ある組織づくり
- (2) 人材育成と組織づくりの関係
- (3) 挑戦を通じた成長の促進
- (4) 結論「挑戦が未来をつくる」

【交流会】担当校 苫小牧中央高等学校

私立高等学校周年行事記念式典

学校法人 立命館

立命館慶祥中学校・高等学校

式典名 立命館慶祥創立30周年・立命館慶祥会90周年記念式典・同祝賀会

開催日 令和7年9月13日(土)

場所 札幌パークホテル

出席人数 500名 ※在校生の出席なし

特記事項 創立30周年事業計画

- ・記念芸術賞 反田恭平ピアノリサイタル @コンサートホール kitara
- ・多目的研究活動ラボ校内整備事業
- ・R-EXPO @札幌コンベンションセンター
- ・記念式典(記念講演会 株式会社タイミー代表、レバンガ北海道オーナー小川嶺氏)
- ・記念祝賀会



学校法人 藤天使学園

藤女子中学校・高等学校

式典名 学校法人藤天使学園 創立100周年記念式典・記念演奏会

開催日 令和7年9月27日(土)

場所 藤天使学園講堂

出席人数 約1,000名

特記事項 [第1部] 創立100周年記念式典

司会 カトリック札幌司教区 教区長 勝谷太治司教

ご祝辞 駐日ローマ教皇庁 大使 フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教

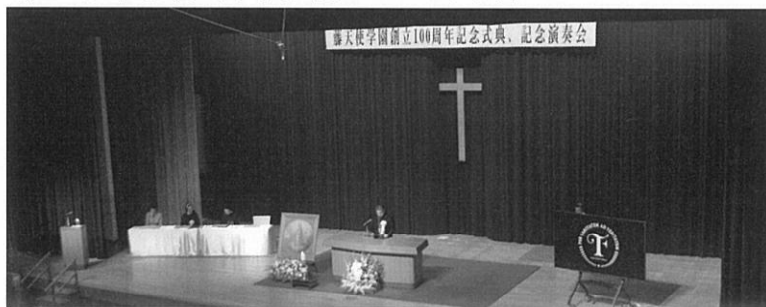
北海道知事 鈴木直道知事

札幌市市長 秋元克広市長

殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会 総長 マリア・コルデイス・ライカー

合唱「ハレルヤ」藤女子高等学校3年・藤女子中学校・高等学校合唱部

[第2部] 記念演奏会 藤女子中学校・高等学校オーケストラ部



北海道社会貢献賞（私学教育功績者）



永年にわたり私学教育の向上に専心され、本道の私学振興に多大な貢献をされている方々に贈られる、令和7年度「北海道社会貢献賞（私学教育功績者）」の表彰式が、10月22日（水）札幌ガーデンパレスにおいて挙行された。

当協会からは、学校法人札幌日本大学学園理事長・札幌日本大学中学校・高等学校校長の浅利剛之様と学校法人北海学園理事・北海高等学校校長の秋山秀司様が受賞された。

浅利先生、秋山先生には、今後ますますお元気でご活躍されますことを祈念申し上げます。

《浅利剛之様のご略歴・ご功績》

【ご略歴】

平成 7年 北海道大学工学研究科
資源開発工学専攻修了
平成 12年 札幌日本大学高等学校教諭
平成 15年 学校法人札幌日本大学学園理事
平成 18年 札幌日本大学中学校教頭
平成 21年 札幌日本大学中学校・高等学校副校長
平成 23年 学校法人札幌日本大学学園常務理事
平成 24年 札幌日本大学中学校・高等学校校長
平成 30年 学校法人札幌日本大学学園理事長

【ご功績】

札幌日本大学高等学校教諭、札幌日本大学中学校教頭を経て、平成21年に札幌日本大学中学校・高等学校副校長、平成24年には同校校長に就任し、永年にわたり中学校・高等学校教育の充実と発展に貢献している。

北海道社会貢献賞（私学教育功績者）

この間、日本大学の理念に基づき、社会に貢献できる有益な人材の育成に尽力し、人材育成像を「世界に貢献する人」、教育方針を「本物の正しい教育」と掲げた教育を実践し、校長就任後、スーパーグローバルハイスクールや国際バカロレアの指定を受けグローバルな人材の育成により、本道における私学教育の発展に貢献した。

また、北海道私立中学高等学校協会理事、札幌支部長、北海道高等学校野球連盟副会長を歴任し、様々な課題に関する意見調整やとりまとめに尽力したほか、部活動を通じて全国の高校スポーツ・文化活動の振興に貢献するなど、本道の私学教育及び高等教育の振興発展に果たした功績は顕著である。

《秋山秀司様のご略歴・ご功績》

【ご略歴】

昭和62年 北海学園大学法学部卒業
昭和63年 北海高等学校時間講師
平成元年 北海高等学校教諭
平成21年 学校法人北海学園評議員
平成31年 学校法人北海学園理事
北海高等学校校長

【ご功績】

北海高等学校社会科時間講師、教諭を経て、平成31年から学校法人北海学園理事及び北海高等学校校長として、永年にわたり高等教育の充実と発展に尽力している。

教諭として在勤中は、同校が道内初の沖縄平和学習実践校であったことを基盤に教科教育を深め、校長就任後も各大学との連携を進めながら「沖縄」を主題とする独自の探究学習を築き推進している。また、同校の男女共学への移行により生徒の進路が多様化する中、進路指導部長として、生き方としての進路意識の向上に努め、生徒の選択肢を大きく広げることに貢献した。

現在も、北海道私立学校審議会委員や北海道高等学校野球連盟常任理事、北海道高等学校文化連盟理事を勤めるなど、本道の私学教育及び高等学校教育の振興発展に果たした功績は顕著である。

北海道私立中学高等学校保護者会連合会

令和7年度も、これまでと同様に「私学助成の拡充」と「父母負担の軽減」を目標に、全国的な組織である日本私立中学校高等学校保護者会連合会や、全道的な組織である北海道私立中学高等学校協会と連携を密にしながら、積極的な要望活動を展開するとともに、保護者会の活性化を図るための活動に取り組んだ。主な活動は次のとおり。

1 北海道私立中学高等学校保護者会連合会定期総会及び講演会の開催

開催日 令和7年6月7日(土)

場 所 札幌ガーデンパレス

総会には、北海道私立中学高等学校協会の西岡会長を来賓としてお招きし、全道の保護者会の代表者など35名が出席した。令和6年度の事業報告と収支決算、令和7年度の事業計画と収支予算について審議が行われ承認された。

総会終了後の講演会では、株式会社 JEPLAN 取締役執行役員会長岩元美智彦様を講師としてお招きし、「みんな参加型の循環型社会」をテーマにご講演いただき、「あらゆるものを循環させる」を目標に取り組んできた資源循環に係る事業や社会動向などについて理解を深めた。



2 日本私立中学校高等学校保護者会連合会令和7年度総会(東京大会)・創立20周年記念式典への参加

開催日 令和7年8月8日(金)

場 所 東京都 ホテルオークラ東京

「今こそ私学から発信～教育が未来を拓く～21世紀(あす)を担う子どもたちのために～」をテーマに東京都で開催され、各都道府県から約130名が参加した。北私学保連から正副会長など7名が出席し、全国の保護者会の方々と交流を深めた。



北海道私立中学高等学校保護者会連合会

3 北海道私立中学高等学校保護者会連合会理事会の開催

開催日 令和7年10月11日(土)

場 所 札幌ガーデンパレス

2回目の理事会を開催し、令和7年度の活動経過及び令和8年度の私学予算の要望、今後の活動予定について協議を行った。

4 令和7年度青少年育成研修会への参加

開催日 令和7年11月21日(金)

場 所 京都市 聞法会館

第1部は「京都発世界人材の育成～経験は人生の宝」を演題とした講演が行われ、第2部は西本願寺参拝拝観を行った。北私学保連から正副会長の3名が参加した。

5 要望活動等

(1) 私学振興全国大会への参加

開催日 令和7年11月5日(水)

場 所 東京都 文京シビックホール

全国の私学関係者ととともに、私学振興に係る補助金等の拡充強化など、国に対する要望を決議した。

大会終了後は、衆参両議院会館において北海道選出国會議員に要望活動を実施した。

(2) 私学振興に関する懇話会全道大会への参加

開催日 令和8年1月14日(水)

場 所 札幌ガーデンパレス

参加者 42名

北海道私学団体連合会が主催する全道大会に、会員が参加し、私学がおかれている厳しい状況について情報を共有するとともに、私学教育の充実発展を図ることを確認した。

6 公立高等学校配置計画地域別検討協議会への参加

道教委が、道内の学区ごとに市町村や学校(公立・私学)の関係者などと、公立高等学校の配置について意見交換を行う、公立高等学校配置計画地域別検討協議会に参加した。

北海道私立高等学校事務長会

会長 木村英司（札幌静修高等学校事務長）

北海道私立高等学校事務長会は、昭和54年に「北海道私立高等学校事務連絡会」として発足して以来、私立高等学校事務における共通の課題を取り上げ、互いの研鑽に努めてまいりました。総会・研修会の開催に当たっては、例年、道学事課をはじめとする関係諸団体の皆様を講師としてお招きし、非常に有意義な時間を積み重ねてきております。

今年度は、函館地区の学校の皆様を中心に、準備および運営にご尽力いただきました。研修会については業務が複雑化する現代において欠くことのできない生成AIの活用や、いつ起こるかわからない災害に対応するためのシミュレーションゲームを企画していただき、参加者全員で体験することで、私立高等学校職員としてのスキルアップの向上に努めることができました。

《令和7年度開催内容》

- 1 開催日 令和7年10月30日(木)～10月31日(金)
- 2 開催場所 ホテル函館ロイヤルシーサイド
- 3 参加校数 会員校50校中約40校が参加
- 4 総会審議事項
 - (1) 会長選出
 - (2) 令和6年度事業報告と決算報告
 - (3) 令和6年度監査報告
 - (4) 令和7年度事業計画(案)と予算(案)
 - (5) 役員改選
- 5 研修会
 - (1) 「学校事務職員の生成AI活用について」
学校法人福岡雙葉学園 学園本部 主任 中村 桂梧 様
 - (2) 「管理運営対策費補助金等について」
北海道総務部行政局学事課 主任 三木 麻莉子 様
 - (3) 「『Do はぐ』避難所運営ゲーム」
函館山ロープウェイ株式会社 FM いるか 中野 由貴 様

北海道私学団体連合会

10団体で構成する北海道私学団体連合会は、令和7年6月10日に北海道私学団体連合会代表者・事務局長会議を開催し、令和7年度事業計画について協議を行った。

当該連合会の主な事業は、「私学振興に関する懇話会全道大会の開催」「自民党道連団体政策懇談会での次年度予算の要望活動」「各種政経セミナーへの参加」など。

また、令和8年1月5日には、道から総務部長、行政局長、学事課長、担当課長補佐の皆様を招いて新年互例会を開催し、懇親を深めた。

《北海道私学団体連合会構成団体》

議長 西岡 憲 廣

北海道私立中学高等学校協会、(公財)北海道高等学校奨学会、
(公社)北海道私学振興基金協会、(公社)北海道私学退職金社団、
(公社)北海道私立幼稚園協会、北海道私立幼稚園振興会、
(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会、北海道学校法人立専修学校協会、
日本私立大学協会北海道支部、日本私立短期大学協会北海道支部
(事務局 北海道私立中学高等学校協会)

道教委 情報ボックス

公立高等学校配置計画（令和8年度（2026年度）～10年度（2028年度））の概要

○ 策定の考え方

| | |
|----------|---|
| 〈趣 旨〉 | 高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本とし、中卒者数の状況を踏まえ、学校・学科の配置や規模の適正化を図るため、令和8～10年度の計画を策定するとともに、令和11～14年度までの見通しを示す。 |
| 〈基本的考え方〉 | 指針に基づき、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情等を考慮しながら、定員調整や再編整備等を行うとともに、多様なタイプの高校づくりを推進。 また、国の施策による影響を勘案。 |
| 〈計画変更〉 | 配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減、市町村立や私立高校の設置・廃止により生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合などは、計画を再検討。 |

1 令和8年度（2026年度）高校配置計画の変更について

| 種 | 区分 | 学校名 | 学級数 | 学校名 | 学級数 | 計画変更の内容 |
|-------------|----------|------------------------------|--------------------------|-----|-----|---|
| 全 日 制 | 学級増 | 栗山 | 1→2 | 留萌 | 5→6 | ○令和7年度（2025年度）の入学選抜の結果、学級減を行った16校のうち、10校について、中卒者数の状況などを勘案し、それぞれ1学級増 |
| | | 野幌 | 2→3 | 美幌 | 2→3 | |
| 千歳北陽 | 3→4 | 湧別 | 1→2 | | | |
| 静内 | 4→5 | 清水 | 2→3 | | | |
| 名寄 | 4→5 | 中標津 | 4→5 | | | |
| 区分 | 学校名（協力校） | 計画変更の内容 | | | | |
| 制 | 地域連携校の導入 | 芦別（滝川） 川（旭川東） 池田（帯広三条） | ○教育環境の維持向上を図るため、地域連携校を導入 | | | |

2 令和9年度（2027年度）高校配置計画の変更について

| 種 | 区分 | 学校名 | 学級数 | 計画変更の内容 | | | | | | |
|-------------|--------------|------|-----|--|-------|-------|----------|------------|------------|------------|
| 全 日 制 | 学級減・ 学科転換 | 北見商業 | 3→2 | ○学級減に伴い、商業科及び情報処理科を情報会計科に学科転換 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>学科転換前</th> <th>学科転換後</th> </tr> <tr> <td>商業科（1学級）</td> <td>情報会計科（1学級）</td> </tr> <tr> <td>情報処理科（1学級）</td> <td>情報会計科（1学級）</td> </tr> </table> | 学科転換前 | 学科転換後 | 商業科（1学級） | 情報会計科（1学級） | 情報処理科（1学級） | 情報会計科（1学級） |
| 学科転換前 | 学科転換後 | | | | | | | | | |
| 商業科（1学級） | 情報会計科（1学級） | | | | | | | | | |
| 情報処理科（1学級） | 情報会計科（1学級） | | | | | | | | | |

3 令和10年度（2028年度）の高校配置計画について

| 種 | 区分 | 学校名 | 学級数 | 主な計画の内容 |
|-------------|------|------------------------|------------|---|
| 全 日 制 | 学級減 | 小樽桜陽 | 5→4 | ○通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、学級減 |
| | | 小牧西 | 4→3 | |
| 函館西 | 6→5 | | | |
| 帯広緑 | 4→3 | | | |
| 芽室 | 4→3 | | | |
| | | 旭川工業 | [6→5] | <u>（地域企業等を支える専門技術者の育成に向けた学科構成の在り方などの検討をさらに深めるため、令和8年度（2026年度）に決定）</u> |
| 制 | 募集停止 | 美瑛 | 1→0 | ○中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元進学率などを勘案し、募集停止 |
| | 再編統合 | 【募集停止】 釧路商業 釧路明輝 | 3→0 4→0 | ○釧路市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況、地域の意見などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、2校を再編し、新設校を設置 ○新設校は、生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じた学習ができ、幅広い進路希望に対応が可能となるよう総合学科5学級を設置 ○令和9年度（2027年度）の各校の在校生については、再編統合前の校舎で進級・卒業する（学年進行方式） <u>（釧路市内の高校配置を検討するための期間を置き、使用校舎は令和8年度（2026年度）に決定）</u> |
| | | 【新設校】 （総合学科） | 0→5 | |

4 地域連携校等の再編整備の留保について

| 学校名 | 主な計画の内容 |
|--|---|
| 【地域連携校】蘭越、虻田、雄武 【農業に関する学科を置く高校】遠別農業 | ○道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携して、高校の特色化・魅力化、入学者確保に取り組む集中取組期間を設けて再編整備を留保 |

（計画案からの変更箇所は、下線のとおり）

道学事課からのお知らせ

私立学校等管理運営対策費補助金について

私立学校の教育条件の維持向上及び修学上の経済的負担軽減を図るとともに、経営の健全性を高め、もって私立学校の教育の振興を図ることを目的として、学校法人へ補助しています。

厳しい道財政ではありますが、皆様方のご意見なども踏まえながら、定員遵守の徹底、教育の特色性の向上、保護者負担軽減といった観点により、効率的・効果的な配分に努めています。

Ⅰ 管理運営対策費補助金

(1) 単価及び総額

| 学校種 | 年度 | 単価 | | 総額 | |
|------|----|----------|--------------|--------------|------------|
| | | | (前年度比) | | (前年度比) |
| 高等学校 | R8 | 384,631円 | 5,849円(1.5%) | 11,033,910千円 | ▲141,674千円 |
| | R7 | 378,782円 | 5,539円(1.5%) | 11,175,584千円 | ▲67,241千円 |
| | R6 | 373,243円 | 4,095円(1.1%) | 11,242,825千円 | 289,465千円 |
| 中学校 | R8 | 361,322円 | 4,757円(1.3%) | 956,420千円 | ▲24,847千円 |
| | R7 | 356,565円 | 6,508円(1.9%) | 981,267千円 | ▲31,798千円 |
| | R6 | 350,057円 | 3,927円(1.1%) | 1,013,065千円 | 634千円 |

・過疎区域対策費 総額 189,877千円 [前年度比 ▲45,948千円(▲19.4%)]

・小規模校経営改善促進費 総額 250,000千円 [前年度比 20,000千円(8.7%)]

(2) 価格高騰対策

令和4年度(2022年度)から、国の交付金を活用し、原油価格・物価高騰対策に取り組んでいます。

○ 給食原材料費等支援事業:保護者の負担軽減に向けた給食原材料費等の経費を支援

○ 物価高騰対策支援事業(光熱費):光熱費高騰の影響を受けている私立学校等に対する支援

(3) 私立学校施設の耐震化

○ 耐震改修状況等実態調査について

学校施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす場であり、耐震性を確保することは、全ての学校施設が備えるべき基本的な条件です。私立学校施設の耐震対策については、令和7年度に閣議決定された「第1次国土強靱化実施中期計画」において「耐震対策を令和10年度までに完了」と目標が設定されましたが、道内では耐震対策未完了の学校が多数残存しています。

各学校法人では、補助金や団体貸付を活用し、すみやかに耐震化を実施する必要があります。

【道内私立高等学校等の耐震改修状況等(令和6年4月1日現在・小中高特支)】

| 診断実施率 | 耐震化率 | 耐震化率全国順位 |
|----------------|----------------|----------|
| 84.8%(全国92.0%) | 78.6%(全国94.6%) | 46位 |

○ 耐震化補助制度について

【国】私立学校施設整備費補助金(診断、補強、改築)

【道】私立学校施設耐震診断事業費補助金 【R9終了】

耐震化支援事業費補助金(補強、改築) 【R10終了】 ※1

| | 耐震診断 | 耐震補強 | 耐震改築 |
|-------|--------------------|-----------------------|------|
| 対 象 | 中学校、高等学校 | | |
| 補 助 率 | 国 1/3:道 1/3:学校 1/3 | 国 1/3:道 1/6:学校 1/2 ※2 | |
| 補助上限額 | 国:なし 道:750千円/棟 | 国:なし 道:33,333千円/棟 | |

※1 国庫補助の交付決定を受けた事業を補助対象とします。

※2 Is値0.3未満の建物の耐震補強の補助率は、国 1/2:道 1/6:学校 1/3となります。

道学事課からのお知らせ

令和8年度修学支援事業について（国の予算は、現在(3/31)国会で審議中のため未確定です。）

私立高等学校等就学支援金など、私立学校に通う生徒の教育費の負担軽減を図る修学支援事業について、令和8年度は以下のとおり大きく制度の改正が行われますので、お知らせします。

なお、詳細については、修学支援係にお問い合わせください。

1 「北海道私立高等学校等就学支援金」の主な改正内容

- ・所得制限の撤廃、支給上限額の増（45万7,200円 ※通信制高校については33万7,200円）
- ・外国籍生徒、外国人学校の生徒の取扱いの変更（一部経過措置または新事業の対象となる）
- ・国と都道府県の費用負担割合の変更（国 3/4、道 1/4 負担に変更）

2 「外国籍生徒及び外国人学校への修学支援事業（新規）」の主な改正内容

- ・私立高等学校等就学支援金の制度改正により制度対象外となった外国籍生徒及び外国人学校の生徒への授業料支援を行うもの

3 「北海道私立高等学校等学び直し支援金」の主な改正内容

- ・所得制限の撤廃、支給上限額の増（33万7,200円）
- ・国と都道府県の費用負担割合の変更（国 3/4、道 1/4 負担に変更）

4 「奨学のための給付金」の主な改正内容

- ・支給対象者の拡充（年収270～380万円世帯、年収380～490万円世帯の区分新設）
- ・国と都道府県の費用負担割合の変更（国 1/2、道 1/2 負担に変更）

いじめ防止に向けた取組の徹底について

いじめは、どの学校、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうるという認識の下、組織的に対応することが重要です。「いじめ防止対策推進法（以下、法という。）」を踏まえ、次の点に留意し、いじめ防止対策を徹底していく必要があります。

1 いじめの定義の理解と法に基づくいじめの積極的な認知

児童生徒が心身の苦痛を感じている場合は、全て「いじめ」に該当するという法の定義に基づき、学校としていじめを積極的に認知する。

2 早期からの組織的対応の徹底

教職員がささいな兆候や懸念、児童生徒の訴えを抱え込まずに、速やかに法により全ての学校に設置されている「学校におけるいじめの防止のための組織」に報告を行うことを徹底するとともに、初期段階での解決に向けて、迅速かつ組織的にいじめの状況を確認し、適切な役割分担により対応を行う。

3 未然防止

児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、信頼関係づくりに努めるとともに、児童生徒の不安や悩みに対して、スクールカウンセラー等を含む全ての教職員がいつでも相談できる体制を整備する。

4 保護者・地域・関係機関の協力を得る

学校のホームページへの掲載や、学校内への掲示などの方法により、日頃から、保護者等にいじめの定義や学校いじめ防止基本方針を分かりやすく伝える。

また、いじめが認知された場合は、被害・加害児童生徒の保護者に対して「学校いじめ対策組織」による解決に向けた対応方針を伝え、信頼関係の下に理解と協力を得られるよう努める。

※ いじめ防止対策の取組にあたっては、令和6年12月26日付け文部科学省初等中等教育局児童生徒課事務連絡「いじめ防止対策の更なる強化等について」を参照の上、取組の強化等を図られますようお願いいたします。

※ 全ての教職員が法・ガイドラインを理解し、学校いじめ防止基本方針の効果的な運用により、いじめの積極的な認知及び早期発見・早期対応を徹底するとともに、いじめを重大化させない取組が重要です。そのため、全ての教職員に対し職員会議や教員研修等において、法や基本方針等について理解を深めるなど、いじめに対する平時からの備えが重要です。

私学情報の発信

【私学ナビ】

令和7年7月に、道内に所在する私立中学・高等学校のガイドブック「私学ナビ(2026年版)」を発行し、道内の小学校と中学校、関係機関などに配付した。

私学の特長や良さをアピールした「私学のいいところを見つけよう!」コーナー、それぞれの学校の特色やアピールポイント、学科・コースなどの情報を盛り込んだ学校紹介コーナーのほか、入試日程や納付金内訳、オープンスクールの日程などを一覧表で掲載している。

夏休み期間中に、ご家庭で進路選択の検討材料としてご活用いただけるよう、夏休みが始まる前の7月上旬に各学校にお届けした。

今後も編集内容を工夫し、見やすく分かりやすい誌面づくりを通じて、小中学生・保護者の皆さんに一層親しまれ、活用される「私学ナビ」の発行に取り組んでいく。

私学ナビをご希望される方は北海道私立中学高等学校協会事務局まで。



【ホームページ】

インターネットを活用した情報発信の充実を図り、子どもたちにも親しみやすく分かりやすい情報を提供するため、ホームページを開設し、学校紹介や入試関連情報、修学支援制度など私学の特色や魅力、関連情報を発信している。

アドレスは次のとおり。

URL:<https://www.doshigaku.jp/>

【修学支援リーフレット】

国の就学支援金制度や道の授業料軽減補助制度、奨学のための給付金制度、北海道高等学校奨学会の貸付制度等を紹介するリーフレットを18万部作成した。会員校が生徒募集資料として活用するとともに、全道の中学生と小学校6年生全員に対して配付し、制度の周知に努めた。



私学情報の発信

【北海道私立学校展】

令和7年度は9月7日(日)に札幌ガーデンパレスで開催した。38回目となる今回は、道内の中学校9校と高等学校27校の合計36校が出展した。

札幌ガーデンパレス2階フロアを使って、各学校の相談ブースをはじめ、制服展示コーナーや、就学支援金等相談コーナー、パンフレットコーナーを開設した。

昨年に引き続き事前予約制の時間入れ替え制とし、1回あたり500名を4回入れ替えて実施した。

午前10時の開場と同時に、多くの児童・生徒や保護者の皆さんが来場し、関心のある学校のブースで、担当の先生の説明を熱心に聞き入っている姿が多く見られ、進路選択の参考としていた。



相談件数は、全体で昨年に比べ約2割増の2,111件であった。なかでも高等学校の相談件数が増えており、昨年の1.3倍の1,904件であった。

日本政策金融公庫や北海道高等学校奨学会等による「就学支援金等相談コーナー」においては、保護者の皆さんが相談を行っていた。

この他、制服メーカー各社のご協力による制服展示コーナーにおいても、児童・生徒や保護者の皆さんが、気になる学校の制服を見比べたり、写真を撮影したりしていた。



会場入口近くに設けられたパンフレットコーナーは、1か所で多くの私学の資料を入手できると好評で、来場者の皆さんが、関心のある学校のパンフレットなどを持ち帰っていた。



来場された方々からのアンケートでは、「多くの私立高校のお話を聞けるととても良い機会だった」、「パンフレットだけでは分からない情報を知ったり学校の雰囲気や少し感じることができた」、「どの学校の先生も丁寧に説明してくれ、聞きやすい雰囲気や話をしてくれた」などといった感想などが寄せられた。

今後も、道内の私立中学・高等学校が連携しながら様々な機会を通じて、私学の魅力や特徴などを発信していくこととしている。

私学関係団体からのお知らせ

基金協会

1. 貸付事業

令和7年度貸付事業については、以下の見込みとなっています。

(千円)

| 資金名 | 予算額 | 貸付額 | | 条件 | | |
|--------------------|-----------|-----|---------|--------|--------------------|-----------------------------------|
| | | 校数 | 金額 | 期間 | 利率 | 限度額 |
| 施設整備資金 | 500,000 | 2 | 39,300 | 10年(2) | 1.9% ・ 2.00% | 一般資金 120,000 特別資金 50,000 |
| 環境整備資金 | 400,000 | 1 | 9,600 | 6年(1) | 1.30% | 120,000 |
| 経営安定資金 | 900,000 | 9 | 405,000 | 7年(2) | 無利子 | 60,000 |
| 短期経営安定資金 | 250,000 | 7 | 85,000 | 年度内 | 無利子 | 15,000 |
| 私立幼稚園等 短期経営安定資金 | 100,000 | 1 | 5,000 | 年度内 | 無利子 | 5,000 |
| 合計 | 2,150,000 | 20 | 543,900 | - | - | - |

3. 助成事業

令和7年度助成事業については、以下の見込みとなっています。

(千円)

| 資金名 | 予算額 | 助成額 | | 条件 | |
|----------------|--------|-----|--------|------|---------------------------|
| | | 校数 | 金額 | 期間 | 利子補給率・限度額 |
| 経営資金利子 補給金 | 3,000 | 7 | 2,035 | 幹旋期間 | 1.0% |
| 耐震診断助成金 | 6,600 | 0 | 0 | - | 1校当たり 2,000 (経費の1/2以内) |
| 防災・省資源等 助成金 | 33,400 | 23 | 33,400 | - | 1校当たり 2,000 (経費の1/2以内) |
| 合計 | 43,000 | 30 | 35,435 | - | - |

2. 融資幹旋事業

令和7年度融資幹旋事業については、以下の見込みとなっています。

(千円)

| 資金名 | 予算額 | 幹旋額 | | 条件 | |
|--------|-----------|-----|---------|---------------------------|--------------------------------------|
| | | 校数 | 金額 | 期間 | 利率 |
| 長期経営資金 | 1,200,000 | 3 | 101,250 | 5年以内 11年以内 (うち繰上1年) | 短期7%プライムレート+0.5% 短期7%プライムレート+0.7% |
| 短期経営資金 | 900,000 | 4 | 130,000 | 1年以内 | 短期7%プライムレート |
| 合計 | 2,100,000 | 7 | 231,250 | - | - |

4. 私学経営等研修会

令和7年度私学経営等研修会については、次のとおり3回実施しました。

| 区分 | 対象 | 開催日 | 参加者 |
|--------------|--------------------------|---------|------|
| 1. 私学経営研修会 | 全法人 | 10/3 | 79名 |
| 2. 私学経営実務研修会 | | | |
| (1) 給与等関係 | 全法人 | 11/7 | 76名 |
| (2) 労務・会計等関係 | 22日-全法人 23日-高校 幼稚園 | 1/22・23 | 76名 |
| 合計 | - | - | 231名 |

退職金社団

退職金資金給付の状況について

今年度の退職金資金の給付額は、令和7年12月末現在で954,217,974円(退職者106人)です。

過去5年間の給付額を見ると、令和2年度131人1,006,075円、令和3年度120人1,113,961,598円、令和4年度108人1,162,724,118円、令和5年度123人1,132,338,147円、令和6年度129人963,351,433円となっています。当社団の退職金資金給付は、平成15年度に最高値の約29億円を給付しましたが、その後は減少傾向にあり、令和元年度からは、8億円から11億円強の間で推移しています。負担金率につきましては、令和5年度から、171%から154%に引き下げましたが、退職金事業の積立金は、今年度末においても順調に積み上がる見込みとなっています。

7大都道府県 令和6年度退職資金交付状況

| 区分 | 登録教職員数 (人) | 退職者数 (人) | 退職率 (%) | 退職資金 交付者数 (人) | 退職資金交付総額 (円) | 退職者一人当り 平均交付額 (円) |
|-----|---------------|-------------|------------|---------------------|-----------------|-------------------------|
| 北海道 | 1,772 | 132 | 7.4 | 129 | 963,351,433 | 7,467,841 |
| 神奈川 | 5,226 | 436 | 8.3 | 428 | 4,129,435,434 | 9,648,214 |
| 東京 | 28,925 | 3,020 | 10.4 | 2,809 | 13,544,527,506 | 4,821,833 |
| 愛知 | 3,865 | 218 | 5.6 | 218 | 2,157,938,540 | 9,898,801 |
| 京都 | 4,264 | 474 | 11.1 | 450 | 1,847,074,722 | 4,104,610 |
| 大阪 | 12,293 | 1,321 | 10.7 | 1,204 | 4,761,035,173 | 3,954,348 |
| 福岡 | 3,599 | 352 | 9.8 | 313 | 1,799,987,205 | 5,750,758 |

※ 東京、京都、大阪は幼稚園加入団体

私学関係団体からのお知らせ

奨学会

1. 令和7年度奨学生について

令和7年6月に定期募集を行うなど各学校のご協力を得て、新規に採用となった奨学生は、第1学年で451人、第2学年で41人、第3学年で27人、合計519人で、継続者と合わせた高等学校等に在学中の奨学生数は、1,460人となりました。なお、家計が急変し修学困難となった生徒に対しては、定期募集以外にも年間を通じて（緊急）採用をしています。（令和6年度採用者は10人）

令和7年度 奨学生の状況（令和7年7月現在）

| 学年 | 私立 | 国・公立 | 合計 | (参考)貸付月額 | |
|------|--------|------|--------|-----------------------------|---------|
| 第1学年 | 365人 | 86人 | 451人 | 右の額から希望額を選択。但し国・公立は25千円を限度。 | 10,000円 |
| 第2学年 | 374人 | 106人 | 480人 | | 15,000円 |
| 第3学年 | 430人 | 99人 | 529人 | | 20,000円 |
| 合計 | 1,169人 | 291人 | 1,460人 | | 25,000円 |
| | | | | | 30,000円 |
| | | | | | 35,000円 |

2. 令和7年度入学資金貸付について

令和7年4月に道内私立高等学校(全日制)を対象に行った定期募集などにより計32人を採用しました。なお貸付額は20万円又は入学した高校の入学一時金のいずれか低い額となっています。

3. 奨学金及び入学資金貸付金の返還について

返還は、貸付終了後1年間据え置いて開始となります。返還状況の悪い方に対しては電話督促や訴訟等、種々の滞納対策を行っております。各学校におかれましても、奨学金及び入学資金貸付金の申込に当たっては返済について本人や父母に周知するとともに、卒業時には約束どおり遅れることなく返済することを指導する等、格別のご協力をお願いいたします。

私学事業団

令和6年度 特定健康診査等の実施結果及び学校訪問型保健指導のご案内

学校法人等からの特定健康診査結果データの提出協力による、加入者の特定健康診査の実施率は、前年度と変わらず83.1%、受診券を送付している被扶養者等の実施率は前年度から2.2ポイント増の39.6%となりました（表1）。また、特定保健指導の加入者の実施率は、前年度から1.5ポイント増の8.0%、被扶養者等の実施率は前年度から2.2ポイント増の10.5%となりました（表2）。

いずれの結果も加入者、被扶養者等ともに上昇傾向にあるものの目標に対して下回る結果となりました。

目標達成には、学校法人等の皆様の協力が不可欠です。加入者等の健康のためにも1年に1回の特定健診・特定保健指導の実施に引き続きご協力をお願いいたします。

特定保健指導はさまざまな受診スタイルがありますが、加入者の方向けに学校訪問型特定保健指導も実施しております。私学事業団が契約しているSOMPOヘルスサポート(株)の専門スタッフが学校法人等へ伺い、空き教室等をお借りして特定保健指導を実施します。指導対象となった加入者の移動時間や受診機関の予約の手間を省き、時間を有効活用できますので、加入者の健康管理にぜひお役立てください。

表1 特定健康診査の実施率

(単位:人)

| 区分 | a加入者 | b被扶養者等 | 合計(a+b) |
|----------|---------|--------|---------|
| A対象者数 | 348,968 | 92,616 | 441,584 |
| B実施者数 | 289,970 | 36,655 | 326,625 |
| 実施率(B/A) | 83.1% | 39.6% | 74.0% |
| 実施率目標 | 85.0% | 40.0% | 75.0% |
| 目標差 | △1.9% | △0.4% | △1.0% |

※被扶養者等には、任意継続加入者を含みます。

表2 特定保健指導の実施率

(単位:人)

| 区分 | a加入者 | b被扶養者等 | 合計(a+b) |
|----------|--------|--------|---------|
| A対象者数 | 48,746 | 2,888 | 51,634 |
| B実施者数 | 3,922 | 304 | 4,226 |
| 実施率(B/A) | 8.0% | 10.5% | 8.2% |
| 実施率目標 | 12.0% | 12.0% | 12.0% |
| 目標差 | △4.0% | △1.5% | △3.8% |

学校訪問型保健指導の実施に関するお問い合わせ先

SOMPOヘルスサポート(株) TEL 03(5209)8553 (平日10:00~12:00、14:00~17:00) 担当:平尾・松村

令和7年度・令和8年度の動き

【令和7年度】

4月 11日 定期監査
 4月 17日 第1回教育振興部会、第2回公私協
 4月 18日 第1回理事会、支部長会
 5月 13日 定例総会、懇親会
 5月 23日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 役員会
 6月 5日 第1回私学展担当者会議<オンライン>
 6月⁵~⁶日 令和7年度私学経営研修会
 6月 7日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 理事会、定期総会、講演会、懇親会
 6月 10日 私学団体連合会代表者・局長会議
 6月 20日 第1回研修部会
 7月 3日 北海道議会教育振興議連との私学振興
 懇話会(第1回)
 7月 7日 第2回教育振興部会、第3回公私協
 7月 8日 全国生徒収容対策会議
 7月 9日 初任者研修運営会議
 7月 29日 令和8年度私立高等学校等政府予算に関
 する中央要請
 8月⁷~⁸日 私立学校初任者研修北海道地区研修会
 8月 8日 日私学保連総会(東京)
 日私学保連20周年記念式典(東京)
 8月 21日 第1回経営管理部会
 8月 26日 第2回理事会
 9月 1日 北海道総務部長との私学振興懇話会
 9月 7日 北海道私立学校展
 9月¹¹~¹²日 テーマ別研修会 苫小牧大会
 9月 13日 立命館慶祥創立30周年記念式典
 9月 25日 第2回研修部会
 9月 27日 藤天使学園創立100周年記念式典
 10月²~³日 全国私学教育研究集会 神奈川大会
 10月 9日 自民党道連団体政策懇談会
 10月 10日 私立学校初任者研修地区運営委員全国会議
 10月 11日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 第2回理事会
 10月¹⁶~¹⁷日 理事長・理事・校長研修会(釧路)
 10月 22日 北海道社会貢献賞表彰式
 10月 23日 第2回私学展担当者会議<オンライン>
 11月 5日 私学振興全国大会
 11月 17日 北海道教育長との私学振興懇話会
 11月 21日 日私学保連青少年育成研修会(京都)
 12月 10日 第3回研修部会

12月 11日 北海道議会教育振興議連との私学振興
 懇話会(第2回)
 12月 15日 第3回教育振興部会、第1回公私協
 12月 18日 地域別公私立高等学校協議会(釧路)<オンライン>
 12月 23日 地域別公私立高等学校協議会(オホーツク中)<オンライン>
 12月 25日 地域別公私立高等学校協議会(上川南)
 1月 5日 私学団体連合会新年互例会
 1月 14日 私学振興に関する懇話会全道大会
 1月 19日 地域別公私立高等学校協議会(石狩)
 1月 20日 地域別公私立高等学校協議会(宗谷)<オンライン>
 1月 21日 地域別公私立高等学校協議会(渡島)
 1月 22日 地域別公私立高等学校協議会(後志)<オンライン>
 1月 27日 地域別公私立高等学校協議会(胆振東)<オンライン>
 1月 27日 地域別公私立高等学校協議会(胆振西)<オンライン>
 1月 28日 地域別公私立高等学校協議会(十勝)
 2月 10日 道立高等学校推薦入試
 2月¹³~¹⁴日 私立高等学校一般入試(A日程)
 2月¹⁷~¹⁸日 私立高等学校一般入試(B日程)
 2月 20日 第4回研修部会
 2月 24日 第4回教育振興部会
 3月 4日 道立高等学校一般入試
 3月 5日 第2回経営管理部会
 3月 17日 道立高等学校一般入試合格発表
 3月 25日 第3回理事会

【令和8年度 予定】

4月 6日 定期監査
 4月 16日 第1回教育振興部会、第2回公私協
 4月 17日 第1回理事会、支部長会
 5月 12日 常任理事会、定例総会、懇親会
 6月 6日 北海道私立中学高等学校保護者会連合会
 理事会、総会、講演会、懇親会
 6月¹⁸~¹⁹日 令和8年度私学経営研修会
 7月¹⁵~¹⁶日 日私学保連総会、研修会
 8月⁶~⁷日 私立学校初任者研修北海道地区研修会
 8月⁶~⁷日 テーマ別研修会(札幌)
 9月 6日 北海道私立学校展
 10月¹⁵~¹⁶日 理事長・理事・校長研修会(苫小牧)
 11月 4日 私学振興全国大会
 11月¹²~¹³日 全国私学教育研究集会 青森大会
 12月 4日 日私学保連青少年育成研修会(鹿児島)
 1月 13日 私学振興に関する懇話会全道大会

北海道私立中学高等学校協会役職員名簿(令和7年度)

| | | |
|-------------------|-------|-----------------------|
| 会 長 | 西岡 憲廣 | 西岡学園理事長 札幌山の手高等学校校長 |
| 副 会 長 (教育振興部会・担当) | 山崎 省一 | 北海学園専務理事 |
| 〃 (経営管理部会・担当) | 宮路 真人 | 北海道文教大学附属高等学校校長 |
| 〃 (研修部会・担当) | 駒井健一郎 | 札幌光星中学校・高等学校校長 |
| 常任理事 | 山崎 省一 | 北海学園専務理事 |
| 〃 | 宮路 真人 | 北海道文教大学附属高等学校校長 |
| 〃 | 駒井健一郎 | 札幌光星中学校・高等学校校長 |
| 理 事 | 池田 延己 | 函館大妻学園理事長 |
| 〃 | 苫米地 司 | 北海道科学大学理事長 |
| 〃 | 富居 徹雄 | 北海道立正学園理事長 |
| 〃 札幌支部長 | 浅利 剛之 | 札幌日本大学学園理事長 |
| 〃 | | 札幌日本大学中学校・高等学校校長 |
| 〃 函館支部長 | 扇柳 尚英 | 函館大学付属柏稜高等学校校長 |
| 〃 小樽支部長 | 小路 修司 | 北照高等学校理事長 北照高等学校校長 |
| 〃 旭川支部長 | 菅野 秀樹 | 旭川志峯高等学校校長 |
| 〃 胆振支部長 | 竹本 将人 | 北海道大谷室蘭高等学校校長 |
| 〃 道東支部長 | 嶋野 幸也 | 白樺学園高等学校校長 |
| 監 事 | 川口 淳 | 札幌龍谷学園高等学校校長 |
| 〃 | 古川 敬康 | 北星学園理事長 |
| 経営管理部会 部会長 | 山崎 省一 | 北海学園専務理事 |
| 委 員 | 星川 定行 | 創成学園理事長 |
| 〃 | 池田 延己 | 函館大妻学園理事長 |
| 〃 | 福島 基輝 | 遺愛学院理事長 遺愛女子中学・高等学校校長 |
| 〃 | 苫米地 司 | 北海道科学大学理事長 |
| 〃 | 宮川 英隆 | 北海道龍谷学園理事長 |
| 〃 | 富居 徹雄 | 北海道立正学園理事長 |
| 教育振興部会 部会長 | 宮路 真人 | 北海道文教大学附属高等学校校長 |
| 委 員 | 浅利 剛之 | 札幌日本大学学園理事長 |
| 〃 | 扇柳 尚英 | 札幌日本大学中学校・高等学校校長 |
| 〃 | 小路 修司 | 函館大学付属柏稜高等学校校長 |
| 〃 | 菅野 秀樹 | 北照高等学校理事長 北照高等学校校長 |
| 〃 | 竹本 将人 | 旭川志峯高等学校校長 |
| 〃 | 嶋野 幸也 | 北海道大谷室蘭高等学校校長 |
| 〃 | | 白樺学園高等学校校長 |
| 研修部会 部会長 | 駒井健一郎 | 札幌光星中学校・高等学校校長 |
| 委 員 | 今城 慰作 | 北星学園大学附属高等学校校長 |
| 〃 | 秋山 秀司 | 北海高等学校校長 |
| 〃 | 橋本 達也 | 北海道科学大学高等学校校長 |
| 〃 | 石川 直美 | 藤女子中学校・高等学校校長 |
| 〃 | 八木 和彦 | 札幌第一高等学校校長 |
| 〃 | 石川 和哉 | 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校校長 |
| 事務局 長 | 澁谷 恵補 | |
| 事務局次長 | 代田 透 | |
| 事務局員 | 佐藤 直美 | |
| 〃 | 稲葉 裕子 | |

お知らせ

令和8年度定例総会は 5月12日(火) に開催する予定です

発行 **北海道私立中学高等学校協会**

〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 札幌ガーデンパレス5階

TEL 011-241-6651 FAX 011-241-6651

URL <https://www.doshigaku.jp/> MAIL jimukyoku01@doshigaku.jp

令和8年3月第32号発行